わが子のあゆみ



2022.11
No.473
初冬号
第74巻3号

11

笑顔が生まれる 那加三小

那加第三小学校の2、3時間目の業間は『青空タイム』です。いつも元気いっぱい、仲良しいっぱい、思いやりいっぱい、笑顔いっぱいの時間です。

学校の教育目標

**かしこく　ゆたかに
たくましく**

～笑顔が生まれる 那加三小～

各務原市立那加第三小学校

［おおのちょうりつひがししょうがっこう］

大野町立東小学校

●住　所　〒501-0522
揖斐郡大野町大字相羽763-10
●TEL　0585-34-3100
●児童数　249名



〈地域の自然や風土〉

本校は、揖斐郡大野町の東部に位置し、学校のすぐ東を根尾川が流れています。また、校区には大野町の特産物である柿を栽培している畑が多く点在しています。本校は、昭和58年に開校した学校です。地域社会やＰＴＡ活動による学校への支援が手厚く、広い運動場と学校の周りのメタセコイアの木々が印象的な外観をつくり出しています。



校舎



あいさつ運動

学校の教育目標

一人歩きのできる子
なかよく・かしこく・たくましく

学校のたからもの①
会釈・あいさつ

本校の児童は、学年を問わず、会釈やあいさつが習慣化しています。廊下ですれちがうと、「こんにちは。」と言って頭をペコリ、校舎の窓から外で遊んでいる児童と目が合うと、頭をペコリと下げてあいさつを交わします。

周囲の人を意識し、その人への敬意を示すあいさつ。6年生の3割以上の児童が、「東小学校を他校にＰＲするとしたら何を挙げるか」という問いに、会釈やあいさつを挙げています。

ＰＴＡの役員の皆さんも、「あいさついっぱい運動」を展開してくださり、あいさつが地域社会へとより広がることを願って活動に関わってくださっています。

学校のたからもの②
ファミリー活動

本校では、縦割り班活動を「ファミリー活動」と呼んでいます。全校児童を10のファミリー（1ファミリー25名程度）に分け、6年生の児童を中心にして異学年児童と温かい関係づくりを推進しています。月に1回ファミリー集会を開き、だるまさん転んだ、鬼ごっこ、ボール遊びなどを通して、ファミリーの仲間との絆づくりに取り組んでいます。上級生は下級生への温かい気配りが、下級生は上級生への憧れの気持ちが、様々な場面で見られます。全校児童の仲が良いことも、本校の宝物の1つになっています。

学校のたからもの③
整理整頓、環境づくりボランティア活動

校舎は、開校以来39年が経ちました。老朽化による修繕が必要な箇所がいくつもありますが、児童は、校舎を大切に使っています。例えば、児童玄関の靴箱、特別教室へ移動した後の教室の写真を見てください。係による働きかけや、一人一人の児童の心掛けにより見事に整頓されています。また、広い運動場には、草が生えたり、木の小枝が落ちたりしています。そうしたことも、児童会が中心になってボランティア活動への参加を呼びかけ、自分たちの手で環境づくりに取り組んでいます。1回のボランティア活動には、6～7割ほどの児童が参加しています。学校を大事にする気持ちが育まれています。



ファミリー集会



ボランティア活動



靴箱の
整頓の様子



PTA資源回収



特別教室使用時の教室の様子



PTAあいさついっぱい運動

学校のたからもの④
「I LOVE 東小」活動

本校は、ＰＴＡや地域ボランティアの皆様による支援や協力がよく得られます。本校を支援する活動を「Ｉ　ＬＯＶＥ　東小」活動と呼び、様々な活動が展開されています。例えば、野菜づくりの支援、運動場の除草作業、運動会のテント設営や片付け、魅力ある図書館づくり、登下校時の地域での見守りなどがあります。また、ＰＴＡによる資源回収やあいさついっぱい運動なども、「子どものために」と保護者の方々が率先して力を貸してくださいます。こうした地域の中で、多くの人に支えられ、今日も、学校での活動が安心して進められます。本当にありがたいことです。

［たじみしりついけだしょうがっこう］

多治見市立池田小学校

●住　所　〒507-0048 多治見市池田町6丁目25番地
●TEL　0572-22-0883
●児童数　320名



〈地域の自然や風土〉

美濃焼の産地、多治見市は平成19年に最高気温40・9度を記録し、日本一暑い町としても有名です。その南西部に位置する池田小学校は、来年度創立150周年を迎えます。歴史と伝統のある池田町屋地区、喜多緑地や地球村等の自然環境、遺跡や文化財等の学習環境といった地域資源に恵まれています。



校舎

学校の教育目標

やさしく　かしこく　たくましく

学校のたからもの①
地域の方と共に学ぶ総合学習

4年生の総合的な学習の時間に花を育てています。地域の「池田花クラブ」の方に指導をいただきながら、「種まき」、「鉢上げ」、「植え付け」をしています。学校のプロムナードは、地域の方と共に学び育てた花で飾られています。また、フラワーアレンジメントの体験や校区にある大原川の「ガサガサ探検」などの環境学習を地域の方と共に活動しています。



花育活動



ガサガサ探検

学校のたからもの②
児童会「挨拶運動」

7月の「さわやか週間」では、児童会が挨拶運動を行いました。進んで挨拶をすることが相手の気持ちを和やかにすることを伝えたり、児童玄関で登校してくる子どもたちに挨拶をしたり、休み時間に、「こんにちは」の挨拶をしたりしました。また、地域の方にも進んで挨拶をするように啓発を行っています。子どもたちの元気な挨拶は地域、学校のたからものです。



見守り活動

学校のたからもの③
地域の方と共に安全教育

児童の登下校時には、地域の「スクールパトロール」の方が、児童の見守りや安全指導を行っています。また、PTAは「水難防止教室」を開催し、着衣水泳を行いました。また、降雨体験を行うなど、地域の方と共に安全教育を行っています。

今後も学校と保護者、地域で連携しながら、予期せぬ事態に備え、「かけがえのない命や健康は、まず、自分たちで守る」という意識と行動力をもった子どもたちを育てていく予定です。



水難防止教室



降雨体験



挨拶運動

［みずほしりつほんでんしょうがっこう］

瑞穂市立本田小学校

●住　所　〒501-0236 瑞穂市本田938番地
●TEL　058-326-3417
●児童数　562名



〈地域の自然や風土〉

瑞穂市は、瑞穂市内を14本の一級河川が流れる水と緑に恵まれた自然豊かな地にあります。本田小学校は、その北部に位置し、校区内には旧中山道が通り、古くから交通の要所として栄え、開校以来150年近くの歴史と伝統に育まれた学校です。

本校は、思いやりあふれる児童が多く、その一層の伸長を図るために保護者や地域の方との連携のもと、長年にわたり伝統的に道徳教育を基盤に据え、教育活動を実践しています。



校庭の桜



本田小の伝統を引き継ぐ

学校の教育目標

みつけ　たすけあい　やりぬく子

学校のたからもの①
引き継がれる「あいさつ」

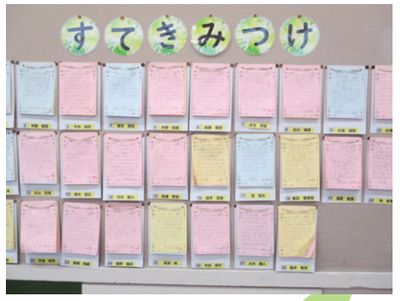
毎年、3月の引き継ぎ式で、6年生から在校生が引き継ぐ5つの宝物の中に「あいさつ」があります。4月からこの「あいさつ」の取組は、6年生を中心に大きな広がりを見せています。登校後、「おはようございます」と各教室や職員室へと声をかけて回る取組が、他学年にも広がり、全校に元気で明るい「朝の挨拶」の声が響きわたり、気持ちのよいさわやかさを生み出しています。



朝のあいさつ

学校のたからもの②
「すてきみつけ」

本校では、すべての学級で帰りの会において「すてきみつけ」を交流する時間を設けています。仲間の「すてき」な行動や心を見つけ認め合う活動です。これは、全校で最も大切にしている取組です。仲間との関わりの中で生まれたすてきな行動やその行動の元となる心を発表し合うことで、仲間や先生から認め励まされ、自分にも良いところがあると自己肯定して生活できることにもつながります。また、執行委員会を中心に、他学年・学級の仲間の「すてき」も見つけ合い、放送等を活用し



仲間や自分の良さを見つけ合う「すてきみつけ」



道徳の時間に
主人公になり切って語る



花の苗植えの
ボランティア



主人公になり切って
会話する



美しく咲いた
セージ

て全校で認め合う活動も進んでいます。全校放送で学級の仲間のことが紹介されると、学級の中で温かいまなざしと拍手が子どもに注がれます。

学校のたからもの③
ボランティア活動

登校後、ボランティア活動で廊下掃除をする子どもたちが多くいます。また、「昼休みに花の苗を植えます」「ベルマークの回収作業をします」の放送と共に、たくさんの子どもたちが活動をするために集まってきます。子どもたちは、人や仲間のため、学校のために働く喜びを感じ、充実感を味わい笑顔いっぱいです。そんな思いやりあふれる心は、がんばっている仲間を応援したり、誰とでも一緒に目標に向かって進んでいこうとしたりする心につながります。

PTAも子どもたちのボランティアの取組を推進しています。子どもたちは、地域清掃や地域の苗植えに参加したときに「本田っ子ボランティア」カードに記録するなど、年間を通して継続的に取り組んでいます。年度末にはボランティアできたことを、互いに認め励ます「ボランティア集会」も行っています。



ペアで学び合う



グループで学び合う

学校のたからもの④
道徳教育を中心にした教育の実践

低学年は、まだ語彙も少なく、自分の思いを話すことが難しい子どもが多いため、道徳の時間には主人公になり切って思いを語ったり、動いたりして自分の考えを出しています。また、中・高学年は、ペアやグループで自分の思いや考えを語ったり自己を見つめ変容を自覚したりします。

このように本校は、道徳教育を学校の基盤に据え、主人公になり切って考えたり、仲間と自分の考えを比べて話したりと、道徳の授業を中心にして子どもたち自身が話せる自分、学び続ける自分を自覚し、学びを深めていっています。その学びの姿こそ、「本田小のたからもの」と言えます。

［ぎふしりつさかいがわちゅうがっこう］

岐阜市立境川中学校

●住　所　〒501-6121
岐阜市柳津町上佐波東3丁目70番地
●TEL　058-279-0009
●生徒数　878名



〈地域の自然や風土〉

境川中学校は、岐阜市の南部、羽島市と隣接する位置にあります。かつては岐阜市と羽島郡柳津町の中学校組合立でしたが、平成18年、岐阜市との合併に伴い、岐阜市立境川中学校として歩みだしました。平成21年に新校舎が完成し令和4年度には創立60年となります。

現在30学級、全校生徒878名の大規模校です。



校舎と虹



講話



学校の教育目標

立ち向かい、ひとり立ち
～自ら学ぼう　長所を見つけよう　仲間と生きよう～

学校のたからもの①
郷土ゆかりの偉人「原三溪（はらさんけい）」

校区内にある「岐阜市もえぎの里」には、岐阜市歴史博物館分室「原三溪記念室」があります。原三溪は岐阜市柳津町出身で、世界遺産に登録された富岡製糸場を経営するなど、日本の近代化に大きな足跡を残した実業家です。さらに、古美術収集、茶の湯、芸術家たちへの支援、社会貢献など、さまざまな分野でも活躍しました。神奈川県横浜市にある「三溪園」は、横浜を代表する観光地のひとつとなっていますが、この園内には、移築した国の重要文化財や価値の高い美術品などが数多く展示されています。

こうした、日本の近代化に大きな貢献をした原三溪の生き方や考え方について、本校では1年生の総合的な学習の時間において追求をしています。

学校のたからもの②
講話「原三溪の生き方に学ぶ」

「原三溪・柳津文化の里構想実行委員会」事務局の方をお招きし、原三溪の生い立ちや地域への貢献などについて講話を聞きました。1891年の濃尾震災の時、当時横浜で生活をしていた三溪は、わざわざ岐阜に戻り復興のための支援を惜しみなく行いました。自分を育てた岐阜の地を大切に思う気持ちや、困った人たちに手を差し伸べずにはいられない三溪の姿から、人の役に立つ生き方や、自分のことだけでなく人のために何ができるか考えることの大切さを学びました。また、三溪は多くの美術品を収集・保護することで、日本の美術作品を海外に流出するのを止めたり、若い芸術家を支えたりしました。人を大切にする、文化を大切にする、その根底に流れる自分のためではなく誰かのためにという三溪の理念に、生徒たちは感銘を受けました。





校内三溪コーナー





フィールドワーク

学校のたからもの③
校外活動「原三溪関連史跡フィールドワーク」

校区には、「佐波八幡神社」「旧佐波小学校跡」「観音寺」など、原三溪ゆかりの地が点在しています。原三溪の功績について学習したり、その歴史的背景を調査したりしたのち、これら史跡をめぐります。各史跡では原三溪とのゆかりや関わりをボランティアの方々が丁寧に説明してくれます。実際の展示品や美術品などを見たり触れたりすることで、自分たちが生活しているこの地に、確かに三溪が生きていた証を見つけ出し、本や資料の中の原三溪ではなく、より身近な存在として感じるようになっていきました。



図書室内三溪コーナー

学校のたからもの④
原三溪新聞づくり

1年間かけて追求してきた原三溪の生き方や考え方を、最後に一人一人が新聞にまとめていきます。その中で、生徒たちは「多くの人に役立てるような生き方をしたい」「まわりをよく見て、相手を気遣えるような人になりたい」「みんなを笑顔にする行動ができるようになりたい」という思いをもつようになっていきました。そして、こうした郷土の偉人の功績の上に、今の自分があることに気付いていきます。原三溪の見返りを求めない生き方が、彼の魅力であり偉大さであり、今でも多くの人に愛される所以です。原三溪を通して、自分自身がどう生きるのか、何を大切にしていくのか、じっくりと考えることができました。

おわりに

境川中学校では、総合的な学習の時間を「生き方学習」として位置づけ、1年生では社会の課題から地域や人のために行動する大切さを知り、2年生では地域で働く人の具体的な生き方に触れ、3年生では社会貢献に努める企業の挑戦や努力について学ぶ取り組みをしています。これらの学習を通して、未来を自分の力で切り開いていく生徒を育てたいと願っています。

9月号を読んで

表紙がプールの写真だったので、プールができて良い小学校だと思いました。3年間プールの授業もなく、さみしい夏だったと思います。（Kさん）

りんごの肉巻きを作ってみました。お肉がすごく柔らかくなり、90才のひいおばあちゃんから3才の妹までおいしく食べることができました。子供もりんごにお肉を巻くお手伝いをしてくれるので、家族で楽しみながら作れて食べられて嬉しいです。（Tさん）

様々な学校の取り組みが見られておもしろいです。「保健室ノート」で同級生が書いていたため、何だかうれしくなりました。来年、長男は中学生になるため、「我らが部活」もとても参考になります。（Yさん）

シリーズ「みんな、いっしょに」を毎回楽しみに読んでいます。車椅子も使用される方が使いやすくしかもおしゃれで女性らしい商品があることを知りました。機能だけでなく、見た目も使用される方一人一人のニーズに応えようとするメーカーさんの考え方、まさに多様性尊重です。私自身、自分の考えが正しいと思い込み、主張してしまう時がありますが、もっと相手の気持ちを想像し寄り添える柔軟さを持てるようになりたいと思いました。（Sさん）

子供と大人は対等に話をしないといけないと分かっていても、家でも学校でも上から目線、指示で動けということが多いので気をつけようと思うが、口だけかも…。（Kさん）

記念講演前編を読み終えて、「軍隊教育の名残」というワードが刺激的でした。時代は変化しているのに、教育は77年前とほぼ同じと言っても過言ではないのでしょうか。日本人は変化を嫌うので、学校現場で悩まれる先生方も多いのではないかと思います。「石の上にも3年」「苔のむすまで」等、我慢や継続が美徳化される時代は終わっていて、それを一番分かっているのが子どもたちなのかな？と。（制服のジェンダーレス化、夏のジャージ登校etc）思いました。（Hさん）

「お弁当」を書かれた中野さんの願いにとても共感しました。お弁当作りに冷凍食品を使用せず毎朝作られているという事。とてもリスペクトします。
朝の慌ただしい時間に、子どもの口に入る事を考えてあれこれ作り、冷まし、詰める事は大変な事だと思うのです。学校がある平日又は他の日も続いていく家事なので。
私自身もそう遠くない未来に、同じ立場になります。子どもの健康を考えたお弁当作り、願いを持って取り組みます。中野さんはすごいです！（Yさん）

人との出会いを大切にしているという文章を読み、私も共感しました。私は、学生から社会人になるまで、たくさんの友人、先生との出会いがありました。迷ったり悩んだ時に相談に乗ってもらいました。ピンチの時も心が強くなれて乗り越える事ができました。本当にありがたいなと改めて感謝しています。友達がいたから笑顔になれました。楽しい事は2倍に、悲しい事は半分になるような気がしています。小学生のわが子は、これからたくさんの出会いがあります。どの出会いも大切な宝物にしてほしいです。そして、何でも気楽に話せて、一緒に頑張れるような友達ができるといいなと思っています。（Iさん）

もくじ　わが子のあゆみ　2022.11　No.473　初冬号

表紙　各務原市立那加第三小学校
1　学校のたからもの
大野町立東小学校／多治見市立池田小学校
瑞穂市立本田小学校／岐阜市立境川中学校
11　特集　第43回岐阜県PTA連合会定期大会
記念講演「『みんなの学校』が教えてくれたこと」後編
17　みんなで家庭教育！
岐阜県環境生活部環境生活政策課
18　先生！ありがとう！
保護者から先生へ贈る感謝の400字メッセージ
19　「多様性尊重の教育㉖」
みんな、いっしょに　安田 和夫
21　保健室ノート　木村 千波
23　私の先生㊶　重岡 慧
25　わが家の宝物　中山 清也
26　リレーエッセイ㉑　秋元 文治
27　子育て半生記　井戸 肇
29　楽しい読み聞かせ⑳　恵那市立岩邑小学校PTA
31　親の背中⑮　髙澤 哲也・小澤 誠
33　私が出会った1冊の本【続56】
後藤 洋志・熊崎 有美
35　子の思い　長谷 優輝・山口 司恩・橋本 莉胡
親の願い　水野 美妙・中村 素子
教育の窓　遠山 京子・松原 輝雄
40　話そう!語ろう!わが家の約束　小瀬 尚輝・水口 俊介
41　親子ではてな
42　お試しクッキング
岐阜県学校栄養士会・（公財）岐阜県学校給食会
43　ふるさとの伝承　土岐市立下石小学校
45　きらり！キッズ！　岐阜市立長森北小学校
47　夢中！熱中！我らが部活　羽島市立中島中学校
49　私たちのＰＴＡ　大垣市立東小学校ＰＴＡ

三井住友海上は、持続可能な社会の実現に取り組みます

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

SDGsで
人とテクノロジーをつなぐ

先端技術を活用して社会の課題解決に貢献

スマート農業の展開支援
ロボット・AI等の先端技術導入、活用に向けた支援により
「農業者の人材不足・作業効率の向上化」などの
地域の農業課題を解決



ドライブレコーダーを活用した
取り組み
保険会社ならではの
専用ドライブレコーダー×AI技術



映像データからAIが損傷箇所を検出し
道路点検を支援するサービス

AI事故状況説明システムによる
迅速な事故解決

MS&AD 三井住友海上

三井住友海上は、レジリエントでサステナブルな社会※をめざします。
※外部環境にしなやかに対応する、持続可能な社会

第43回 岐阜県ＰＴＡ連合会定期大会
記念講演

『みんなの学校』が教えてくれたこと

後編

大阪市立大空小学校初代校長　木村 泰子 氏





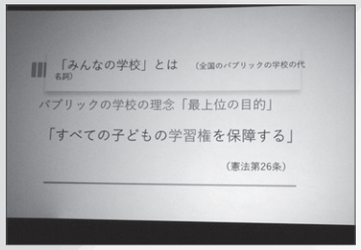
全ての子どもの学習権を保障する学校

自殺、不登校、いじめ、過去最多。３年間でこれだけ子どもが死んでいます。学校という場に居場所がある子どもです。なのに、この子どもたちの命が二度と取り返しがつかない事になっている。もし、この中の一人の子どもが自分の子どもやったら、自分の学校の子どもやったらって、自分事に考えたら、何か自分を変えなきゃいけないんじゃないかと思います。文科省は、障害があろうとなかろうと、全ての子どもは、できる限り同じ場でいつも一緒に学び合う、インクルーシブ教育が大事って、10数年前に通知しました。そこから、何故か、地域の学校の特別支援学級、地域から離れて特別支援学校。ここを求める子どもの数が、もう3倍ぐらいに膨れ上がっています。子どもの数は、すごく減っているんです。子どもの数は減ってんねんけど、支援学級、支援学校を求める子どもの数は、この2、3年で、本当に2倍、3倍という勢いです。どうしてなんでしょうか。

児童虐待過去最多。親が子どもを殺す、これが今の日本社会の当たり前になっていませんか？子どもはやっぱりね、口にはしません。でも、家の中で殺されへんかなって思っている子が皆さん方の学校にも当たり前にいてると思うんですね。

教員の休職、実は、新任の先生がこんなはずではなかったと辞めていく。先生たちが辞めていく数も過去最多です。先生たちが辞めていく多くの原因は、保護者のクレームです。保護者のクレームに耐えきれなくなって辞めていく。何かおかしいでしょう。そういう大人同士の関係性をね、子どもら黙って空気吸ってるんですよ。

子どもの命以上に、全国学力調査の結果を全国で一番にしたいという人いますか？おそらくいないと思うんですね。でも、子どもの命を、これを最優先にっていう言葉を案外私ら忘れるんですよ。見落とすんですよ。見落とすから、見える学力、知識をインプットして、インプットした知識をどれだけ正しくペーパーにアウトプットするか。その力で、通知表はＡＢＣって決まる。これも50年前の学校文化と何ら変わっていないですよね。でも、子どもが置かれている社会環境はここまで変わって来ているんですよ。今までやったら、産まれて来れなかった子どもの命が科学技術の進歩で命が繋がるんです。大空にも６００グラムで産まれた女の子が1年生に入って来ました。その子、視力も弱くて、「先生、うちの子、みんなと一緒に勉強できひんと思う。喋るのもそんな喋られへんと思う」って、お母さんすごい心配していたけど、その子6年生になって、「えっ？この子６００グラムの子どもやった？」って、私ら入学して来た時のその子の姿思い出せないんですよ。それだけ子どもの可能性は子どもが持っているんですね。



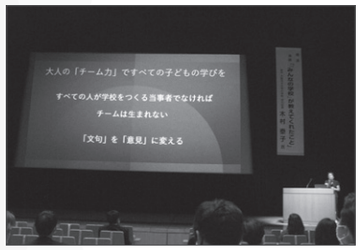
学校の最上位の目的は、全ての子どもの学習権を保障すること。何か堅い書き方しているけど、去年の八月、文科省が「誰一人取り残さない令和の日本型教育を！」って、言語化をようやくしてくれましたがよね。誰一人として来られない子どもがいないという事ですよね。だから、校長の責任って、たった一つだと私は考えています。校長の責任って、全ての子どもが安心して学べる学校、子どもの居場所を作る。そんな学校を作る事なんですよ。

どうですか皆さん。全ての子どもが一日の学びを終え、納得して「さよなら」って家に帰ったら、次の日、安心して「おはよう」って来るじゃないですか。じゃあ、保護者の皆さんも、子どもが学校の先生嫌やとか、いじめられたとか、子どもが言わないで安心して納得してたら、保護者の皆さんも納得して安心しませんか？じゃあ、学校で働いている教員、楽しいじゃないですか。子どもが家に帰って、クレームの電話の1本もかからない。じゃ、職員室でみんなで、明日の準備しようって、勤務時間終わったら、帰ろうぜーって。子どもが納得して学校に来て、子どもが学校で学んで子ども同士の関係性を作って、さよならって帰ったら、クレームの電話の1本もかかりませんよ。でも、こんなん教員一人の力では不可能。不可能やのに、先生の指導力を上げろ、授業を上手くしろ、学力調査の結果上げろ、子ども理解をしろ、学級経営ちゃんとしろ。こんな事を、こんな50年前の学校の当たり前を引きずってたら、10年後の多様な共生社会、想定外の社会、予測困難な社会に、学力なんて付きません。

大人のチーム力 ～学校とＰＴＡの関係性～

今、大人のチーム力が求められているんですよ。皆さん方は、ご自分の学校をご自分が作っていますか？これを「当事者」というんです。校長に頼まれて動いていませんか？これは、当事者ではありません。自分が自分の学校を作るという当事者になれへんかったら、チームなんて生まれないんですね。

大空は、９年間、入学式で同じ事を言いました。「みなさん、大空小学校は一切文句は受け付けません」って。そしたら、初めてのお母さんたち、大変な学校に来たなみたいな顔をされます。でもね、文句は誰も幸せになれへんやろって。文句言っている人も幸せになれへんし、文句聞いている人も幸せになれへんし、文句は人と人が分断するねん。敵対視するねん。大人がそうなったら、その空気吸っている子ども、一番不安やで。子どもの脳って、大人の怒鳴り声とか大人の何とも言えない不安な空気を感じたら、一瞬で危険地帯に変わってしまう。だから、「何で、何回も同じ事を言わせるの？」って子ども言われるけど、そ

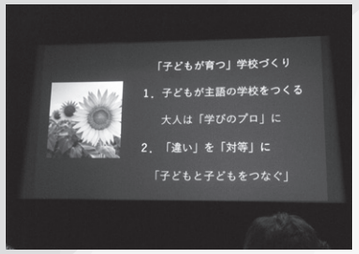


んなん子ども逃げる事しか考えていないから聞いていません。それに、大人の自己満足でいっぱい怒るんです。昔の私たちもそうでした。やり直しをする前は、それが教員の指導力やと思っていました。意見は人を否定しないから未来に繋がる。実はこれが対話のベースなんですよね。で、自分が作る自分の学校、全ての人が当事者になる、人のせいにしない学校作り、これがみんなの学校です。

　子どもは、自分の学校を自分で作ります。保護者は家で子どもを守る。でも、学校の門を一歩入ったら、皆さんは２６０人の子どもたちのサポーターです。子どもが皆さんの顔を学校で見たら、サポーター。サポーターというのは子どもの味方なんですね。子どもの味方やから、学校にいてくれる大人は、全部自分のサポーターって子ども信じてます。

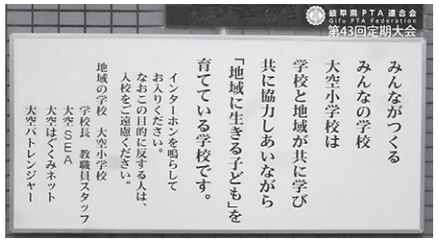
　もう一つはね、持続可能なみんなの学校作りって、ギブアンドテイクやったらあかんと思うんです。分かりやすいのは、学校とＰＴＡの皆さんの関係性が、「連携（ギブアンドテイク）」やったら…。連携はすぐゴールが来ます。だって、学校がＰＴＡの皆さんに、こんな事学校に来てして下さいってお願いする。皆さん方は、校長の一言で動いていただく。動いたらありがとうって、これを連携って言いますよね。連携は、人に頼まれて動く組織です。校長が替わったら、学校変わってしまいます。「個人情報保護のために、皆さん用のある会議以外は入らないで下さい」って言う校長がいたら、地域の困っている子どもたち、地域の宝が学んでいる学校に皆さんは入らないですか？そうしている間に親に殺されてしまう子どもがいても、それは仕方がないじゃないですか。学校とＰＴＡの関係は、違いは尊重し合えば対等な関係性になるんですね。これが、ウインウインです。

　大空は、非常にアウェーからスタートした学校なんです。実は、大きな学校が教室足らんから隣の地域に新しい学校を作ろう。これが大空なんです。このプランを行政が出してから20年間、地域の反対運動が続いて学校ができませんでした。理由は、地域格差。ブランドの地域から被差別部落があるような地域に何で自分たちの子どもや孫が行かなあかんのや。でも、法律がいっぱいできてる。部落の人差別したらあかんで、障害者を差別したらあかんで、っていう法律がいっぱいできてる。だから口には出せへん。でも行動するんですね。反対運動、20年間続いた。そこで産まれたのが大空なんですね。だから皆さん、いい地域にこんな学校を目指して作られたんやなと思われる方がよくあるんですけど、真逆です。大人が差別を行動に表していると、子どもはみんな真似します。いじめたらあかんでって、大人がいじめてる。先生がこんなんいじめたらあかん言うて、先生いじめているやんみたいな。こんな空気を子どもが吸ってたら、そんなんいじめなんてなくなるわけありませんよね。こういうスタートで、しんどい子ばかりこっちの学校に来たで、何か学校に行かれへん子ばかりこっちに来てんねん。新しい学校にＰＴＡやる人なんて誰もいてへんねん。じゃあ、ＰＴＡなしでいいやんって。実はここからスタートした学校です。そっからね、これは５年目ぐらいから、ようやくこの看板を校門に付けることができました。「学校と地域が共に学び、共に協力し合いながら、「地域に生きる子ども」を育てている学校です。インターホンを鳴らしてお入り下さい。なお、この目的に反する人は、入校をご遠慮下さい」。子どもと学ぼうと思う人は、どなたでもどうぞ。でも、この先生さぼっているよ、校長ここにゴミあるよ。校長、こんな奴おったら迷惑ちゃうか？こんなん言いに来る人は、出入り禁止って。いつも地域中、回覧板で回して貰っていました。この後に、大空ＳＥＡ（シー）ってあるでしょう。この大空ＳＥＡっていう組織が実は、過去のＰＴＡなんです。ＰＴＡって何のためにあるのって。ＰＴＡって大人が学ぶ場なんですよ。でも、大空は、ＰＴＡなしでスタートしたんやけど、母ちゃんたちが、「子どものために何かやりたい。校長先生こんなんやりたいけどやっていい？」って聞きに来ました。私びっくりしたんですね。えっ？何で私に聞きに来るの？って。でも、校長があかんって言ったらあかんやろって母たちが言いました。それって大間違いと違う？校長に許可貰ってやるって、対等な関係性ってそんなもんちゃうやろ。子どもらのために自分たちがやりたいと思ったら、何で相談するの？自分たちの総意で自分たちの意思で、みんなで考えてやればいいやん。学校に相談するのは、みんなでやってて、ちょっとうまくいかなかった、トラブル起きた、そうやって困った時に、校長先生困ったって相談する。この関係性やで。あんたら困ったら、私ら全教職員で、「よっしゃー」って、困っている事どうしたら困らへんようになるかなってみんな動くようになるでって。こういう関係性をみんなと学校で作ろうって、それが組織の立ち上げやったんです。



　ＰＴＡのＰはペアレンツ、保護者だけ。でもＳは、子どもの周りのサポーター、全てのサポーターを巻き込んでいました。ＰＴＡのＴは先生でしょ。先生が教えるのが学校やって。もうそんな時代違うなって。大空を毎日毎日時間があれば学校に来て、困っている子の横で、どうしたら困らへんかなって関わってくれてたら、先生が教えて子どもが知識をインプットしていくんやって、やっぱ分かってくるんですよ。そこで、このＥは、エデュケーションのＥ。学校は、全ての子どもの可能性を引き出す場所やから、その事を目的に、この組織を立ち上げたんです。でね、これまで一生懸命子ども育てて来たんですよ。でもね、子どもが育ってたら不登校、いじめ、自死みたいな言葉生まれません。子どもが育っていなかったんです。それは、子どもの責任ではありません。私たち主語が親であり、主語が教員である以上、子どもの育ち、子どもの困り感って、目が行かへんかったんです、残念ながら。でもね、子どもが主語の学校作りって。じゃあ、子ども学んでんねんから、大人が指導じゃなくて、学びのプロにならなあかんな。違いは、対等に子どもと子どもが繋がったら、自死、不登校、いじめ、こんな言葉は浮かんできません。

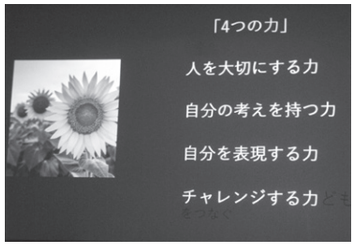
　今ね、新しい指導要領が出て、自律という言葉が小学校１年生から高校３年生まで、とても大きな学力としてね、勿論自分が考えて自分がやる事なんですけど、でも、この自律って自分が考えて自分が判断して自分が行動して失敗するだけが自律じゃないんですよ。この自律というのは、自分が困った時に、他者と適度に依存し合える関係性を作る力、この力が子どもの足元にある土俵でなかったら、困っている人が困らなくなる、誰もが生きやすい社会を子どもは作っていけないじゃないですか。



四つの力～メタ認知能力～

　今日学習の中で、子どもはこの四つの力をどれだけ高めたか、教員はこれを授業評価にしました。子どももこの力を付けるために学校に来ていました。皆さん、この力どうですか。

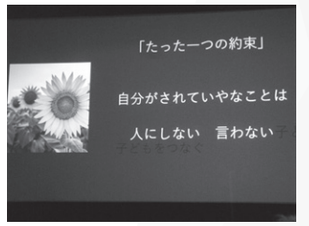
　この四つの力ってね、全て自己評価です。でも、皆さん方の学校でも常に学校って、他者と比べる他者評価やったんですね。大空もそこから抜け出す事にとても困った９年でした。でもね、毎日６年間、一方の自分が、自分で四つの力、どんだけ付いているかなって自己評価する、これがメタ認知能力です。このメタ認知能力が幼児から中学生になる６年間、毎日毎日、見えない学力として子どもたちはこれを上位目標に置いていました。勿論大人もです。この四つの力を毎日高めてたら、勝手に結果が出るんですよ。見えない学力を優先すると、見える学力は驚くほど上がりました。一番びっくりした



のは、9年目、私たち全然そこに意識がなかったんですが、全国学力調査です。大阪市結構低かったんですね。だから、上の方から学力調査の繰り返しテストをやれやれ、学力上げろって、いっぱい上から降りてきました。でも、1時間もそんな時間は取りませんでした。もっと大事な時間がそれでも足らなかったからです。でも、開校当初は、大阪市よりも低かったんですね。塾に行っている子ほとんどいてへんし、生活保護や就学援助が半分以上みたいな状況で、だからどうなのっていう話なんですが、でもね、9年目にね、全国1位の県よりも大空の子どもたちの学力は上にあったんです。平均正答率は8ポイント上にあって驚いたんですね。これは自慢して言っているわけではないんです。でも、暴れる子がいたり、重度の障害がある子がいたり、発達障がいと言われる子がいつも一緒に学んでいる事が当たり前の学校です。困ったら子どもは主体的に出て行きますから、いちいちあなた障害あるから算数の時間こっちと言わんでも。

子どもは子ども同士の関係性の中で育つ

全ての子がね、安心して学校で自分らしくトラブル起こして学べるそんな居場所を作るのに、この約束だけは大人も子どもも守ろって。たった一つの約束破ってしまったら、自分のためにやり直しをします。先生たち、別室指導とか給食のおかわりなしとか、休み時間なしとか、そんな事しません。指導もしません。だって、その子がどうしたら人を殴らなくてもいいか、その子がどうしたら暴れなくなるか、そんなの私ら分かりません。その子の中にしか正解ないからです。やり直しに付き合います。

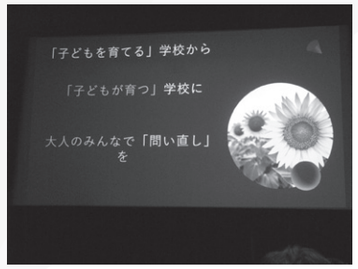


これは、私のやり直しのもう忘れられない思い出なんですが、6年生のこの子ね、朝、歯が抜けたって言って見せに来た子なんですが。この子がね、授業中、5年生終わりくらいかな、算数の時間になったらものすごく暴れ始めるんですよ。暴れたら、バーンって机倒したりします。私、ああそろそろ暴れるなと思って、算数の時間、この子の教室に入って行きました。教室入って行ったら、その子、机を持ってね、こんな顔してるんですね。あっ、今から机倒すわって、その瞬間にその子の周りにいる子どもたちがね、授業やってる最中ですよ、その子の方誰も見ないけど、みんなね、上手にスーと机離し始めたんです。私思わずね、



「あんたらって案外冷たいな」ってしゃべってしまったんです。皆さんどう思いますか?その言葉を聞いた周りの子どもら、一斉に私の方を見ました。私の方を見て、一人の子が、「校長先生馬鹿やー」って。でも私、みんなが何で怒っているのか分からへんのです。だからみんなに、「なあなあ、あんたら私に馬鹿の説明して!私わからへん」って言ったら、子どもたちは、「今この教室の中で誰が一番困ってる?」って聞きました。それで私は、「勿論キョウスケやろ」って。「そやろ、一番困ってんのんキョウスケやろ、私ら今困ってない。一番困ってるキョウスケが机倒して筆箱飛んで来るで、そんな机や筆箱で困ってない私ら怪我したら、キョウスケもっと困るやろ、それくらい分からん?」って言われました。私、教えて貰って分かったんです。ああそうかって。何も返す言葉がなかったので、私が悪いから、やり直しして来ますって、校長室に帰りました。これ、私の未だに忘れられない「やり直し」なんです。

皆さん、ご自分の子どもがね、「キョウスケ暴れるな…、あんな暴れる奴おるから…、あいつ障害あるんじゃない?あんなん、特別支援学級ちゃうん?何で俺らの教室におんねん、ママ言ってよ」って。そんな子どもを作りたいですか?校長馬鹿ちゃうかって、誰が今困っているの?、困っている奴がもっと困るやろ。困ってる子が困らないようになるのに、自分は何ができるかなってみんな行動しているわけですよ。私たち教えるなんて、子どもに教えて貰うわけですよ。でもこれね、いつも一緒にいる事が当たり前やからなんです。「発達障がいの子はこっちね」ってなったら、当たり前がやっぱり違う。子どもが吸う空気、この子ども同士の関係性の中で育つから、大人になって、誰もが生きやすい社会を作るわけですよね。今の社会は生きづらいと私は思っています。だから、少なくとも、子どもたちには、誰もが違っていても生きやすい社会を作る大人になるために学校で学んでるんやろって、そんな大人の姿を見せたいなって、私はその事しか考えてないんです。



あのね、暴れてる子がいたり、教室飛び出す子がいたらね、「先生、困ってる子いない?」って学校にフラーって行って下さい。行って飛び出して来たらね、先生に、「先生、大丈夫、私行くからね」って。そんな子どもがいるのが今の学校の当たり前。そんな子ども作ったらあかんでって言われるから、自殺、不登校、いじめ、やっぱりここから来てるんです。スーツケースに入る子だけが学校に行っていて、安全安心ではありません。スーツケースに入られへんサイズの子どもは今いっぱいいます。じゃあ、スーツケースから風呂敷に変えませんか?風呂敷は、どんな形であれ、どんな風呂敷であれ、どんどん繋げるんです。風呂敷をどんどん繋げていったらね、私たち学校の人間の風呂敷みんなが繋いで、足らんなら、皆さんの風呂敷どんどん繋いで貰って、それでもその風呂敷の上に乗れない子、やっぱり今の多様な価値観の中で育って来ている子やからいます。じゃあ、その子がいてる足元までその風呂敷を広げていく、これがインクルーシブな教育です。こんな空気を子どもたちが吸って大人になったら、そんな社会を作るんじゃないでしょうか。

大人同士が繋がって空気を作る

学びの目的って、その子がその子らしく育つ、それ以外にありません。今日一番お願いしたかった事は、子どもを一人ぼっちにしない大人に、学校に求めたり先生に求めたり、そうじゃなくて、それぞれ自分が当事者になって、自分の子ども育てたかったら、自分の子どもの周りの子ども育てにみんな学校へ来るんやでって、これが大空の合い言葉でした。自分の子どもには、やっぱりいろんな感情が入る。でも、周りの子どもが困ってたら、「大丈夫?私に何かできる事ある?」って声掛けれるんですね。そんな母を自分の子どもが見てたら、「あれは、俺のママ。ええとこあるな」って、そんなふうに子どもにまちにさえなれへんかったら、子どもは死にません。親や教師には言えない事を子どもはいっぱい持っています。でも、斜めの関係のサポーターや地域住民には言えるんです。「絶対先生に言わんといてや」って、大空の子いっぱい言います。それを職員室に入れてくれて、大人のチームで、困ってる子が困らないようにするにはどうしたらいいって話し合うんです。皆さんの風呂敷がなかったら、半分くらいの子どもは不登校です。だからみんなの学校は、特別でも何でもありません。

最後に、できない事がいっぱいあったりね、できない事で、何でできないの?って、人はどんどん自己効力感みたいな物を失っていくんですけど、「どうやったらこの子友達殴らんで済むやろな、どうやったらこの子安心するやろな」って、いつも考える大人同士が繋がっている、そんな大人の空気を子どもが吸うから学校がありのままの自分を出しても安心できる場所になる。そんな学校で育った子どもは、学校卒業したら、地域住民になって、土として地域の学校を、やってもらったように耕していきます。

今、大空は、教職員は、台風のような風を時には吹かします。でも、卒業生が土になって、今は土を耕しているそうです。ぜひ、自分が、「困ってる子が困らないように、どんな行動しよ?」って、そんなふうに岐阜県の子どもたちをお願いします。

岐阜県環境生活部環境生活政策課

家庭で子どもに教えたいことや、育みたい力など、
家庭教育のヒントになる情報をお伝えします！！



みんなで家庭教育！

外に出ましょう、見つけましょう、自然の中で！

過ごすようになりました。

しかし、私が住んでいる地域は、田んぼや畑が宅地化され、家のまわりでは、田植えの時期のカエルの鳴き声や秋の虫の声が聞こえなくなってしまいました。

1 近くの自然へ

今年、町内で「堤防で春を見つけよう」という活動が行われました。近くの堤防で生息する昆虫や植物を見つけてシールを貼っていくのです。地域の小さなお子さんから年配の方まで、27名が参加しました。

当日は、雨でしたが、参加された皆さんは、「春の植物・生き物ビンゴ」を完成させようと、グループごとに協力し合い、楽しく春を見つけることができました。

参加された皆さんの感想です。

・草笛を知らなかったけれど、おばさんたちが教えてくれてふけるようになってうれしかったです。ビンゴも楽しかったし、お菓子がもらえてうれしかった。みんなで堤防まで散歩したのも楽しかったです。

・雨が降りましたが、心配は無用で、美しい自然の中、堤防の植物や生き物を探しながら、こんなにワクワクしたのは何年ぶりでしょう！皆さんと楽しめて、本当によかったです。

ちょっと足をのばせば、自然は人を待っていてくれます。そして、人を優しい心にしてくれます。

2 雑草という草はない

私が高校生の時、夏休みの宿題として、50種類の野草の植物採集がありました。聞いたこともない名前が書かれたプリントと真新しい植物図鑑とを照らし合わせながら、家の近くを探し回りました。最初は、受験に関係ない宿題に時間を奪われることに、少し腹立たしい気持ちがありました。しかし、あちこち歩きまわり、図鑑に載っている植物を見つけたときには、まるで宝物を見つけたような喜びを覚えました。旅行で遠くに出かけた時も、草場に行き、まだ見つけていない植物を探しました。そうして、夏休みが終わり、50種のすべてを見つけることはできませんでしたが、宿題を提出したときの達成感は忘れられません。

今でも、散歩の道すがら、「雑草」ではまとめられない一つ一つの植物に眼がいき、その名前を呼ぶことができます。それによって、何か身の回りの自然に近づけたような気がして、今はその宿題を出してくれた先生に感謝しています。

3 先生はそばにいる

「草花や生き物の名前が分からない。」「草笛を吹いたことがない。」「自然の中に行っても、子どもに遊び方を教えられない。」そんなお父さん、お母さんがみえると思います。昔は、祖父母や近所のお兄さん、お姉さんがそうした遊びを教えてくれたのですが、核家族化、少子化で身近な先生は少なくなりました。しかし、便利な世の中です。草花や生き物の写真をスマホで撮れば、候補となる草花や生き物の写真と名前が表示されます。「草花遊び」「草笛」と検索すれば、それに長けた人が動画で教えてくれます。「知ろう」と思えば、すぐに教えてくれるネットの中の先生がいるのです。

4 人間は自然の一部

人間の「経済」と「社会」は、「（自然）環境」に支えられて成り立っています。人間は、自然の一部であり、自然がなければ生きていけません。しかし、子ども達の自然の中で遊ぶ経験が少なくなると、自然が自分とは関係のない存在になってしまいます。自然を軽視することにもなりかねません。

身の回りの自然が少なくなっただけでなく、感染症や熱中症への心配のため、外に出る機会が減ってしまいました。でも、気をつけながら、子どもと一緒に外に出てみましょう。今まで見ていなかった草花や生き物を見つけましょう。自然の素晴らしさを感じ、その限りある貴い恩恵を実感するために！

西濃県事務所　振興防災課
家庭教育推進専門職　酒井　俊巨





先生！ありがとう！

～保護者から先生へ贈る感謝の四〇〇字メッセージ～

子ども時代の思い出を守るために

日頃よりＰＴＡ活動にご理解、ご協力いただき誠にありがとうございます。

垂井町立垂井小学校ＰＴＡ会長の太田です。

まだまだコロナウイルスの影響に翻弄されながら、ＰＴＡ活動も制限せざるを得ない状況で「今年こそは！」と息巻いて計画した様々な活動も、第７波の感染拡大により中止を余儀なくされました。

ＰＴＡ活動に関しては今のところ中止して来年に備えればよいとは思いますが、先生方にとっては子ども達の日々の活動を中止させるわけにはいかない中で、コロナ前の日常と違った様々な工夫をして、小学校生活を支えていただき、一人の親として大変感謝しております。

少年少女時代の思い出は、些細な事だったとしても人間性を形成していくうえでは欠かせない事です。学校での先生や友達との関わり合い、日々の学校生活、勉強や運動はもちろん、運動会、遠足、修学旅行などなど、仲間たちとともに笑い、涙して、心に刻まれていく思い出が、コロナ禍の中でこれ以上奪われることの無いように、計画して実行していただいている先生方に心より「ありがとう」を伝えたいと思います。

「先生！ありがとう！」

（垂井町立垂井小学校ＰＴＡ会長　太田　潤）

information

■作品を募集しています。

イラスト・なぞなぞ・逆さ言葉などの作品を募集しています。イラスト・絵手紙はハガキの裏面に描いてお送りください。ペンネームを使う場合にも、郵便番号、住所、学年と氏名を表面に記載してください。なぞなぞ・逆さ言葉は「親子ではてな」の回答とともにお送りください。

宛先はいずれも　〒500−8816 岐阜市菅原町3-3
岐阜県校長会館内「岐阜県PTA連合会・作品係」まで

採用の方にはお礼をさしあげます。

■本誌の購読について

本誌は年間5回発行（7・9・11・1・3月）されます。年度初め（4〜5月）と7月の2回、各学校PTAを通じて購読募集を行います（1冊200円、5冊1,000円）が、年度途中でもお求めいただけます。学校または県PTA事務局へお問い合わせください。

■1月号のお知らせ（予告）

特集＝続・親子でサイエンス／表紙＝八幡中／学校のたからもの＝西小（岐南）・山之上小・坂下小・丹生川中／わが家の宝物＝岩野田北小／リレーエッセイ／みんなで家庭教育！／みんな、いっしょに／保健室ノート＝北小（大野）／私の先生＝稲津小／子育て半生記＝蘇原第二小／楽しい読み聞かせ＝伊自良北小／親の背中＝養北小・昭和中／1冊の本＝加納西小・黒川中／わが家の約束＝大井小・神岡中／子の思い＝八木山小・小野小・北陵中／親の願い＝穂積小・岐阜西中／教育の窓＝静里小・旭ヶ丘中／先生!ありがとう!＝中央小（羽島）／お試しクッキング／ふるさとの伝承＝旭小／きらり!キッズ!＝福岡小／夢中!熱中!我らが部活＝国府中／私たちのPTA＝早田小

【多様性尊重の教育㉖】シリーズ

みんな、いっしょに

タイで感じた「SDGs」とは

岐阜聖徳学園大学教育学部特別支援教育専修 教授　安田 和夫

3年ぶりのタイ訪問

ASEAN諸国の特別支援学校の実態調査を、岐阜大学や中部学院大学の先生方と共に進めてきています。しかし、今から2年半前にマレーシアに出かける直前、新型コロナウイルス感染が世界中で広がり、予定していた渡航計画を中断してから、現地に行くことが一切できなくなりました。その間、リモートによる関係者との協議や意見交換を進めてきましたが、実際の学校の様子や学んでいる児童生徒の姿から得る情報は多く、一日も早い訪問を待ち望んでいました。

そんな中、10数年前から、タイへ何回も訪問し、脳性麻痺などの子どもの指導を続けてきている同僚がタイの関係者とつないでくれたおかげで、8月に1週間余り、現地での調査研究が実現しました。

タイへの訪問は、3年ぶりとなります。4回目のワクチン接種を終えるとともに、直前のPCR検査などを済ませた上での出国となりました。バンコクに到着すると、空港は多くの人が往来しており、デパートなどが立ち並ぶ中心街も自動車の往来が多く、着実に感染拡大前に戻りつつあるようでした。しかし、人々の姿に目を向けると、日本同様に、マスクの着用が厳格に守られており、滞在期間中、ほとんどマスクを外している人をみかけることはありませんでした。

バンコク市内の伝統校への視察

さて、到着翌日から、さっそくバンコク市内の特別支援学校2校と特別支援教育センターを視察してきました。

1校目は、バンコク市内の知的障害や自閉症の児童生徒が学ぶ特別支援学校で、タイ国内で、初の知的障害教育校として設立された伝統校です。施設も教材教具も整っており、説明していただく教職員の専門性も高く、圧倒される思いでした。訪問日は、金曜日だったのですが、毎週金曜日は、校内外の専門家、たとえば、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、音楽療法士などがそろっており、子ども一人一人にあった個別指導を行う日と決まっているようです。校内のいたるところで、専門家による学習活動や訓練が個別指導の形で展開されていました。

2校目の特別支援学校は、聴覚障害を対象とする学校で、いわゆる「聾学校」です。この学校も、タイの中で、初の聴覚障害教育校として設立された伝統校で、施設も設備も充実しており、ほぼ全員の先生方が流ちょうな手話を使いながら表情豊かに授業を進めておられました。説明を聞いてびっくりしたのは、高等部生徒の卒業後の進路がほぼ100％大学進学とのことです。本学にも聾学校からの卒業生が教員を目指して通ってくれていますが、それぞれの学校で聞いても、100％という話は聞いたことがありません。ただ、説明をしていただいた先生のお話では、進学100％を手放しで喜ぶことができないのは、大学卒業後、確実に、自ら希望する進路実現を果たして自立と社会参加につながるのか見極めていく必要があるとのことでした。そのため、大学卒業を見越して、高等部在学中から、自分が抱える困難さや特性を理解するとともに、勤労観や社会スキルを身につけることを大切にしているとのことでした。

この点は、現在の日本でも同じことがいえると感じます。大学進学率はますます高まっていくと思いますが、問題の先送りにならないように、聾学校をはじめとする特別支援学校と大学機関が、生徒（学生）にどんな力をつけていくとよいのか、教育内容や支援方法を見直していく必要があると感じます。現在、岐阜市でも「のりしろのある支援」を合い言葉に、障害や疾患などにより様々な困難さのある大学生の自立と社会参加について、在学中から、専門性を有する関係機関や行政機関と大学が、相互に抱える問題点を共有し、具体的な「のりしろ」をどのように構築していくとよいのか、協議を重ねています。この動きを、ある大学の話ではなく、大学間ネットワークを構築して、仕組みとして成立するようにと大きな願いを持っています。

障害児療育施設への訪問

さて、翌週には、重度の障害のある幼児児童生徒を対象とする民間施設の訪問をしました。最初に訪れたのは、脳性麻痺など肢体不自由や重複障害のある子どもたちの施設です。この施設は、完成したばかりで、これから運用が始まるところでした。案内してくださったノックさん（施設長）からは「この施設の完成形をみた日本人は安田さんが初めてです。」と微笑みながら話してくださいました。実は、この施設の設計や監修に携わったのは、今回の縁を取り持っていただいた日本の先生方なのです。特別支援学校での勤務経験から学んだことを生かして、具体的に助言をいただいたそうです。大型遊具を安全につり上げるフックや、生活訓練もできる広い空間のトイレやお風呂、個別指導できる小部屋や小集団活動ができるプレイルームなど、民家サイズに、よくここまで知恵と経験、そして、夢が結集しているなと、感激してお話を聞きました。

実は、ノックさんには、脳性麻痺のお子さんがおられましたが、すでにお亡くなりになっています。しかし、お育てになっているときから、同じ境遇にあるお仲間がまだまだ大勢おられて、中には、経済的な問題から療育を受けたくても受けられない現状を課題と感じておられ、息子さんの死後、寄付を集められ、自ら、家庭訪問療育を始められました。そして、自らが猛勉強して指導者になられているのです。日本へイギリスへと、いい内容の研修があれば、現地に出かけ研修を積み重ねられたのです。そして、夢は膨らみ、訪問療育だけではなく、療育の拠点作りにも着手され、今回の施設完成に至ったのです。

日本への強いあこがれ

ノックさんは、繰り返し、日本への強い憧れを語っておられました。日本の教育制度、特に重複障害のある子どもたちの教育が充実していること、ノックさんが出会われた「動作法」をはじめ、様々な指導、支援技法が国内で学ぶことができる環境があることなどです。そして、もうひとつが、カスタマイズされた子ども用の車椅子や姿勢保持器具、補装具などが整っていることです。

タイには、大人用の一般的な車椅子があるものの、子どもたちが生活の中で使うことができるような体に合った車椅子はほぼ皆無です。福祉用具ではなく医療器具として取り扱われているために、様々な制約があることも背景にあるようです。ノックさんは、日本から、使われなくなった子ども用の車椅子や補装具を送ってほしいとの切実な思いを話してくれました。「サイズが合わないよ。」というと、「たくさんの子どもの中からサイズが合いそうな子どもにプレゼントするのです。」と答えてくださいました。SDGsがグローバル社会の中で共通の目標として掲げられる中、私にもこの分野でお手伝いできないのか、自分自身の問題としてとらえて「自分にできること」「仲間とともにできること」を見つけたいと思っています。

ひまわりのような笑顔

郡上市立大和中学校
養護教諭
木村 千波



大和中学校は、ひまわりを「大和中の花」とし、一昨年度からは、種植え、移植、水やり、草刈りと、生徒だけではなく地域協議会や地域のみなさんの協力をいただきながら、大切に育てています。ひまわりは、本校の人権宣言「ひまわり宣言」にも掲げられています。心の命は、自分や周りの人を傷つけず、ぱっと花開くひまわりのような笑顔や、あたたかな関係を作ることで育てることができます。そんな命が大切にされる、命を大切にできる大和中学校でありたいという願いがこめられています。

夏休み前には、全校生徒で「ひまわりの満開を祝う会」も行いました。満開のひまわりと、生徒たちの咲き誇る笑顔でいっぱいの会となりました。



今回は、大和学校地域保健連絡会（やまびこ園・町内4つの小学校・中学校・行政の関係職員で構成し、町内の乳幼児から中学生までの子どもたちの健康づくりを推進している）と連携して取り組んでいる、『朝スッキリ目覚め作戦（平成26年度～）』について紹介します。

今年度は、メディアコントロールにも注目し、『大和の子ども朝スッキリ目覚め作戦～睡眠の質につながるメディアコントロールをしよう～』の取り組みを始めました。

この取り組みの目標は、

①朝、家を出るまでの時間が1時間以上ある。

②毎日朝食を食べる。

③寝る30分前までには、メディアの使用を終える。

④家庭でメディアに関する約束を決める。です。

保護者の方に記入していただいた、『子供の生活習慣アンケート』の項目の中の、寝る前のメディアの使用状況については、約半数の生徒が、寝る直前まで利用しているようです。

保健室に体調不良を訴えて来室する生徒に、生活の様子を聞いてみると、睡眠時間が十分でない生徒も多くいます。理由の多くは、夜遅くまでメディアを使用していることなどがあり、メディアとのつきあいかたを考え、自分自身でメディアコントロールをしていく必要性を感じます。

家庭でも、メディアの使用について、7割近くの家庭で約束を決めていただいています。

・使用時間を決め、休憩をとる。

・アプリのインストールなどは、親の了解をとる。

・通信ゲーム中の、言葉に気をつける。

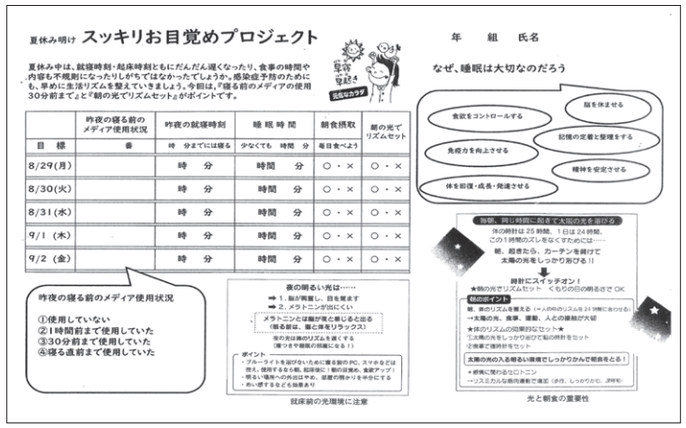
・寝る30分前には、メディア使用をやめる。

などです。

学校でのスッキリお目覚めプロジェクトでは、「寝る前のメディアの使用は30分前まで」と「朝の光でリズムセット」の2つをポイントに、生活チェックなどを実施しています。就寝前の光環境や、光と朝食の重要性なども伝え、『知る』『実行する』『効果を感じる』『習慣になる』ことを意識し、取り組みを継続していきたいと思います。

現在、本校では体育祭の取り組み中ですが、生徒健康委員会でも、睡眠のメリットを全校に知らせ、体調を整えて参加できるようにと呼びかけています。

中学校卒業後も、子どもたちのひまわりのような笑顔が続くことを願い、今後も地域や、家庭と連携していきながら取り組みを充実させていきたいと思います。



ベストを尽くす

羽島市立竹鼻小学校
教諭　重岡 慧

私が教師を志したのは高校生の時。根っからの野球人だった私は、将来仕事に就くなら高校野球の指導をしたいと思ったことが教師を志すきっかけでした。元々体育が好きだったこともあり、体育の教師になること、思いきり体育の勉強をしたいと考え、体育大学への進学を決めました。そんな私が小学校の教師を目指そうと思った三つのきっかけと、教師になってからの思いについて書きたいと思います。

小学校の教師になろうと思った一つ目のきっかけは、大学でお世話になった福祉を専門とする先生の何気ない一言でした。私はその先生のゼミに所属し、活動に取り組んでいました。ある日の休憩中に、先生とカンボジアで青年海外協力隊として活動する、教え子の話を聞かせていただいていました。自分の知らないカンボジアの教育について興味をもって話に聞き入っていると、突然、「重岡、お前行ってみるか。」と言われました。冗談だったのかもしれませんが、興味をもっていた私はカンボジアで体育を教える活動に参加することになりました。現地に行ってからは、驚くことばかりでした。カンボジアには体育が存在しません。体操をするだけで、子どもたちは大はしゃぎです。現地では、小さい子から中学生の子どもたちに向けて体育の授業をしたり、運動会を開いたりする活動を行ったりしました。子どもたちにとって学校はなくてはならない場所であること、日本では知ることができなかったボランティアの意義など、私にとって忘れられない経験をすることができました。この経験を通して、私は視野を広くもつこと、実際に行ってみないと分からないことなどを、教師になって自分の経験を子どもたちに伝えたいと思うようになりました。

二つ目のきっかけは、福祉の実習でお世話になったソーシャルワーカーの方との活動です。活動では児童館やフリースクールなど、様々な場所でニーズをもった子どもたちと関わる経験をしました。子どもたちの中には学校に行けない子や、周りに反対して暴力を振るってしまう子など、さまざまな課題をもっている子がいました。その中で多く関わったのが、小学生の子どもたちでした。福祉の実習では、児童の背景を知って辛い気持ちになることもありましたが、子どもたちと関わることがとても楽しく、教師として福祉の知識を身に付けることがとても大切であると気付かされる経験となりました。この実習から私は、小学校の教員として、子どもたちにとって居場所となるような学級をつくりたいと思い始め、小学校の教師を目指すようになりました。

三つ目は、教職大学院でお世話になった先生と、大学院で出会った仲間たちとの学校生活です。私が進学した教職大学院では、学卒院生と現職院生が一緒になって学習し、協力してプレゼンテーションを作成したり、授業を考えたりします。どの先生も個性にあふれ、熱い想いをもった方ばかりでした。また、ゼミ活動で他県の授業を参観したり研究発表会に参加したり、大学近くの学校で研究授業をしたりと、現場に出る前に様々な経験をしました。学校のことで困った時、悩んだ時は、今でも教職大学院の先生や仲間に相談にのってもらうことがあります。教職大学院での学校生活は、私にとって今の授業や学級経営の基礎となり、修了して6年たった今でも、困った時に助け合える仲間をつくることができた大切な時間になりました。

教員として現場に出てからも、毎日がとても楽しく、充実した日々を過ごしています。しかし、体育科として専門性をもった授業づくり、学級経営など、まだまだ課題ばかりです。私の周りには教え導いてくださる先生、元気いっぱいな学級の子どもたち、家族、友人など、すべての人に支えられ、今の自分があります。教師になってから出会った先生方も尊敬できる方ばかりで、たくさんのことを学ばせていただいています。私はこれまでの経験から「仲間」という言葉を大切にしています。まずは自分ができるベストを尽くし、悩んだ時には素直に困ったと相談できる、そんな子どもたちに成長してほしいと思いながら指導をしています。私自身もベストを尽くし、子どもたちと共に成長していきたいと思います。

海津市立大江小学校 PTA副会長　中山 清也

わが家の宝物

わが家の宝物と聞かれると、なかなか答えようがわからないですが、やはり家族ではないでしょうか。家族の中でも、これが良いなと思う事はよく笑うということです。私には小学6年生の長男と小学4年生の長女がいます。とにかくよく笑います。特に長男は［ゲラ］でして、みんなで食事していてもテレビを観ていてもゲラゲラ笑っています。それにつられて長女もゲラゲラ。

たまにアングリしますが、それはそれで幸せな時間かとも思います。そういう明るい所が学校生活や野球にいかされて、何事も前向きに取り組んでくれると良いなとも思います。いずれ大きくなるにつれ一緒に過ごす時間も減っていくかもしれませんが、今はこの些細な幸せの時間を家族で過ごしてゆければ良いなと思っております。





リレーエッセイ 21

岐阜市立華陽小学校ＰＴＡ
秋元 文治



災害ボランティアで座右の銘になった言葉

長女が2歳（現在中学2年生）の時、3月11日東日本大震災が起こり、約2ヵ月後の4月28日からご縁があり岩手県宮古市に炊き出しなどの災害ボランティアに初めて参加しました。その後県内は関市上之保や高山市朝日町、東白川村の水害や、台風被害による千葉県館山市、長野県長野市・須坂市、また水害被害で熊本県人吉市ならびに球磨村に、昨年は広島県安芸高田市に災害復旧ボランティアに行きました。

「やらない善よりやる偽善」
「土を見るより、人を見よ」

この2つの言葉により私の行動や思いも変わり、まずはとやかく言うより行動するようになりました。そして行動するうちに理解者も増え人のためと思っていた行動が自分を笑顔にしてくれるという事に気がつけました。

もちろん敵や理解してもらえない方もいらっしゃいますが、気にせず我が理解者の方々と道をいっております。

しかしながら昨年後半体調を崩しました。しかし家族や理解者の皆様のおかげで、まだまだ前向きに生きれています。

昨年度まで単位ＰＴＡ会長3年、単位ＰＴＡ副会長1年経験させていただきました。やはりＰＴＡ本部役員は大変そうというイメージがあるのは現実ではありますが、誘われれば基本断らず引き受けてきました。その中で変えるべきは変え、良いアイデアは取り入れたつもりではありますが。

この文章をお読みになった方は何事も基本的には前向きに考えていただければと思います。

家庭人としてはあまりいい夫やいい父親ではないですが、家族一緒に居てくれるだけでも感謝です。僕自身の生き様を妻や子どもたちに見せられればいいと思っております。

最後までお付き合いいただき、ありがとうございました。



次回は…　岐阜市立本荘中学校ＰＴＡ　毛利 理恵さん

子育て半生記

地域とのつながり

七宗町立上麻生小学校 PTA会長　井戸 肇

加茂郡七宗町と聞いて、皆さんはどんなところ？と思うのではないでしょうか。私もこの地で生活して50年たちますが、自慢できるもの・場所などが正直思い浮かびません。そんな町で育つ子供たちは、何を楽しみに、どのような大人になっていくのかと少々不安に思っていましたし、今でも不安要素はたくさんあります。

私が小学生だったころは、小学校の全校児童が200人から300人くらいいました。一学年が50人くらいいたので、自然と競争心や相手との付き合い方、人への思いやり等を学ぶには良い環境だったと思います。保護者の方々も自分の子とほかの子を区別することもなく同じように育ててくださって、良いことと悪いことをしっかりと指導してくれました。自分自身も自分の親に怒られるよりはほかの親さんたちに怒られることが多かったように思います。また、遊びといえば、外で野山を走り回ったり、虫を捕まえたり、夏になると川で泳いだり…と体を動かして遊ぶことが主流でした。

現在では、大変残念に思いますが全国的に見て、自分の子供さえよければ…という考え方の方が増えてきているように思います。携帯電話、インターネット、SNS、ゲーム等の急成長に伴い、便利なツールとして利用していることもありますが、間違った使い方によって犯罪等につながっているのも事実です。

私たち上麻生小学校では、学校とPTAと協力して、3・7い（みない）運動を行っています。3と7のつく日はノーメディアの日として、テレビ・ゲーム等に接しないで過ごす、という取組です。何年も続いていますが、その日以外でもノーメディアの日が増えていると報告を受けています。



また、現在の小学校は全校児童が62人という小規模な学校です。何か活動を行うときには、地域の方々の協力が必要となってきます。ありがたいことに皆さん協力的に参加してくださり、良いことはほめあい、注意することは遠慮なく意見していただいています。

この2つをみてみると、私の子供のころと変わってないな～、とほっとしています。

ちょうどこの文章を書いているときは、7月のお盆の頃でした。えっ、お盆って8月だよね、と思われる方もみえると思いますが、我が家のお盆は7月です。各家庭でやり方は様々ですが、仏様を迎えるため、盆提灯に野菜・果物を並べたりと、我が家では子供と一緒に迎えています。私たちの地域では、お盆だけではなく、お正月から始まり、年末までの一年の中で毎月のようにある行事を子供と一緒に準備したり、片づけたりすることで、大人になったときに記憶の片隅に残っていてほしいなと思っています。

七宗町はとても田舎で小さな町です。典型的な少子高齢化の町です。今後もだんだんと人口が減少していくと思われます。が、昔からの伝統を守り続けていて、地域の皆さんが学校に関してもいろいろな行事に対してもとても協力的な町だと思います。

残念ながら、ここ何年かはコロナの影響で学校も活動がいろいろ制限されていますが、少しでも地域の方々とのつながりを持ちながら活動を続けていけたらと思っています。

この活動が、小学校を卒業して大人になったときに、これが七宗町の自慢です、と言ってくれる子供が一人でも多くなるように、保護者として努力していきたいです。

Illustration&Quiz
イラスト&クイズ



PN. 蘭丸くん（岐阜市）



PN. こだまちゃん（加茂郡）

question 1

出題・玉腰 和都子（郡上市）
〈答えは41ページ〉

のびないチーズって何だ？

楽しい読み聞かせ 20

読み聞かせができない！『逆さま家族読書』に挑戦

恵那市立岩邑小学校ＰＴＡ

学校紹介

岩邑小学校は、岐阜県東部、恵那市岩村町にあります。歴史ある町で、江戸時代より知新館と呼ばれる藩校もあり『学び』を大切にしてきた地域です。地域の偉人である江戸時代後期の儒学者佐藤一斎の教えである「書に学ぶ」「求めて学ぶ」「学んで活かす」を学校教育でも実践し、先人学習も盛んで、以前から読書活動を大切にしています。図書館も『知新図書館』と呼んでいます。



●コロナ禍、どうしよう?!
これまでの読み聞かせ活動ができない!!

本校では、地域の読み聞かせサークルとＰＴＡ家庭教育委員会が、毎月交互に15分の朝活動での読み聞かせを行っていましたが、3年前の春からどちらも活動できていません。また、ＰＴＡの読み聞かせは、家庭教育委員会が全保護者に呼びかけて行ってきましたが、お仕事の関係や「大勢の子の前で読むことが恥ずかしい」などの理由から、読み手が見つからないという課題を抱えていました。

●じゃあ！家庭で行う
読書活動を考えよう!!

本年度の役員引き継ぎの際、「読書活動推進に力を入れてほしい」と言われ、家庭教育委員会役員で相談しました。「コロナの落ち着いた時に学校での読み聞かせをする?」「動画に撮って放映する?」「動画じゃなくて音声だけ放送する?」などの意見が出る中、「年に3回、学校主導でやっている親子読書を発展させてみよう！」ということになりました。

●読み聞かせるのは大人の役目?
子どもに読んでもらおう!!

本校では、学期ごとに「親子で同じ本を読み、子どもが読書画と簡単な感想文を書き、親がコメントする」恒例の読書活動『家族読書』がありました。

「いつもの役割を逆さまにして、子どもが読んで、親が読書画と感想を書いて、子どもがコメントするのはどうだろう?大人が子どもの気持ちを味わうのもいいかも。」ということで、3回のうち1回を『逆さま家族読書』として、実施してみることにしました。

●いざ!新しいことへのチャレンジ!!

恒例になっているということは、保護者も「ああ、いつものね。」となりがちなので、「今回は、いつもとやり方が違います。」と、通信で丁寧に説明しました。

参加してくれる親子も多く、学級ごとにふりかえりの通信を発行し、掲載許可をいただいたもの6枚ずつを紹介しました。

保護者からは、「高学年になった子どもに、本を読んでもらうのは新鮮だった。」「頑張って読んでもらえて嬉しかった。」などの感想が多く寄せられました。「きょうだい3人分書くのは大変。」「子どもは読むだけで、親の宿題になっている。」など、苦戦された様子の感想もあり、課題も残ります。また、「絵を描くのが苦手で、プレッシャーになる。」「あの子のお母さんは絵が上手、などと比べられそう。」という声もありました。「大人がそう思うのなら、子どもたちも日々そんなプレッシャーの中で頑張っているのかな?」と、子どもの気持ちを少し想像しました。我が子は「今回は絵を描かなくていいからラッキー!」と喜んでいました。



●よし！次のチャレンジは
『おうちの人のお仕事紹介』だ!!

コロナ禍、保護者を含め、地域の大人が学校に入っていくことが難しくなっています。しかし、一保護者としては、親以外の大人を見て、関わって、「いろんな人がいるんだな。」「そんなふうに考える人もいるんだな。」と実感しながら大きくなってほしいと思っています。今、読み聞かせの発展形態として、お父さん、お母さんにお仕事についてのインタビューをし、動画を撮って、クラスで観てもらう『おうちの人のお仕事紹介』を考え中です。「うまくいったら、知新図書館の視聴覚教材になるね。」と先生と話しているところです。

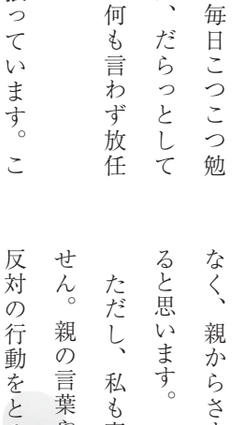


親の背中 ⑮

親子のきずな

高山市立本郷小学校
ＰＴＡ会長　高澤 哲也

わが家には、離れて生活している大学生の長男と長女、そして少し年の離れた小学６年生の次男がいます。現在も子育て中ではありますが、今までを振り返り反省することばかりが頭に浮かびます。子どもを授かり、ただ愛おしく抱きしめていた頃から、子どもの成長につれて私の欲が大きくなり、思春期には怖い親父の存在が抑止力になっていた私の経験から、子どもにとって父親は怖い存在であり、母親は優しい存在という勝手な思い込みをしていました。今、考えると時代錯誤も甚だしいですが、子どもが言うことを聞かず強い言葉と力で制圧したときもあり、きっと辛い思い出として子どもの記憶に刻み込まれたんだろうと思いあらためて気づきます。どこまで出来るかわかりませんが、子どもとの対話や体験を通して考えや思いをつなぎ、〝親子のきずな〟を深めていければいいなと思います。



子どもと一緒に

岐阜市立三輪中学校
ＰＴＡ会長　小澤 誠

「親の背中」って何だろう。妻や子供に聞いても、？？？って感じでした。私自身も、子どもが心身ともに健康で、楽しく過ごしてくれたらいいなぁという思いでした。

さて私には、中学３年生の息子と小学４年生の娘がいます。２人の姿には感心させられることがあります。

息子は派手さはありませんが、とにかく「こつこつ」物事に取り組みます。小学校６年間はサッカーを続け、ほとんど休む事はありませんでした。６年生では少しずつ試合にも出られるようになりました。最近は受験生ということもあり、毎日こつこつ勉強をしています。もちろん、だらっとしている時もありますが、特に何も言わず放任しています。

娘はテニス、英語を頑張っています。これまた、休むことなく「こつこつ」続けています。仲間にも恵まれ楽しいんだと思います。テニスには他の校区の子もいて、視野や世の中が広がり、いい影響を受けていると感じています。とにかく毎日楽しく過ごしていて、うれしい限りです。

そんな子供たちに接してくださる方は、学校の先生、地域の方、コーチ、友達の親さん、他にもたくさんの大人の方々がいます。多くの方々に影響を受け育てて頂いていると感じています。これからも人との出会いを大切にして成長して欲しいと思います。

その中でも親の影響は一番大きく、責任は重大です。

「子は親の背中を見て育つ」という言葉があります。親の言葉からだけでなく、毎日の生活の姿を見て、子どもは意識することなく、親からさまざまなことを吸収していると思います。

ただし、私も妻も完璧な人間ではありません。親の言葉や行動が良くないと思えば、反対の行動をとる判断を養ってくれていると思えば、少し気が楽になります。実際、子どもから指摘を受けることもあるので、良く成長していると感じます。

やはり大切なのは、頑張って一生懸命に生きる姿を子どもに見てもらい、信用される存在であることが必要です。逆に、やる気のない姿や、いい加減な態度を見せることだけはやめたいです。

これからも、ありのままの姿で接しながら、「子どもと一緒に成長」できる様な関係でありたいと思います。

反省しています。

わが家は農家で、両親は朝早くから夜遅くまで一生懸命働き、地域の役割にも精一杯携わって育ててくれました。今は親となり、家や家族を守る大変さを感じ、両親に感謝しています。家族で旅行することもほとんどありませんでしたが、当時は地域の旅行や活動が活発に行われており、その中で多くの人と触れ合いながら物事の見方や考え方を教わりました。加えて、子どもも多かったので、近所の子ども同士で遊びながら上下関係など人との関わり方や、より楽しむための工夫や甲斐性を学びました。親だけでなく大勢の背中を見て育ちました。

現在、わが子の生活環境は昔とは大きく異なっています。過疎化による子どもの減少、地域活動の衰退、テレビ・通信ゲーム・スマホの普及（一人遊び）…。この現状を考えると、最も近い大人（社会）である親の存在が大きくなったと思いながらも、つい子どもと一緒になって大好きなテレビに夢中になり、向かい合って会話しながら目線はテレビを向いている次第で、これまた反省しています。

そんな私も、この夏休みに子どもの作品（かまど）作りを手伝いました。いつもは母親任せですが、今回は力作業で出番がありました。土をこねるときの要領、綺麗に穴を掘る方法や道具の使い方、釜でご飯を炊くときの火の付け方など、子どもとの体験を通して一緒に考え学ぶ場面がありました。私の知らない間にこんなことも出来るようになったのかと、わが子の成長を感じられ有意義な時間でした。考えてみれば、今まで上の子に関わる時間が多く、末っ子にゆっくり向かい合うことが出来ていませんでした。

外で暮らす長男と長女のことを思うと、親子で過ごせる時間は長いようで短いことに

私が出会った1冊の本【続56】

ルドルフとイッパイアッテナ

著者：斉藤 洋　絵：杉浦 範茂
出版社：講談社



大垣市立日新小学校ＰＴＡ会長
後藤 洋志

「パパァ～？小学校の時に読んだ本で好きな本ってなぁ～に？」
と、小４の娘が尋ねてきました。私は小学生のときに特に読書が好きな少年ではありませんでしたが、ふと思い浮かんだのが「ルドルフとイッパイアッテナ」でした。好きになったきっかけも覚えています。著者が斉藤洋（ひろし）だから。好きな野球のチームは広島カープ。私と同じひろしだから。きっかけなんてこんなものでしょう。主人公のルドルフは黒ネコ。魚屋から逃げる途中、ジャンプした瞬間に攻撃を食らい、気を失いトラックの中に乗ってしまう。そして東京へ。そこでトラねこのイッパイアッテナと出会います。

ルドルフはイッパイアッテナからノラネコの生き方を教わり、故郷の岐阜に帰る方法を模索します。

ある日、イッパイアッテナは町に流れてきた野良犬とケンカし、勝利します。その脅し文句にルドルフは憧れ、イッパイアッテナの前で真似したシーン。イッパイアッテナはルドルフを諭します。

「それからな、おまえがまねをしたおどしもんくはな、そうそう安っぽく使うもんじゃないし、用もないのに、軽はずみに、口に出していいってもんじゃないんだ。はったりで使ったりしてはいけないんだ。あれは、おれがいぬとわたりあったときにいったせりふだ。あいつだって、好きでノラいぬやってたわけじゃないだろう。わかるだろう、ルド。」

これがラストシーンにつながります。

イッパイアッテナはデビルという飼い犬にだまされ、瀕死の怪我を負ってしまいます。ルドルフとブッチーはイッパイアッテナの敵討ちをします。デビルはとても強い犬ですが、ルドルフの作戦は成功し、池にデビルを落とします。必死で池から上がろうとするデビルはルドルフに命乞いをします。このときルドルフは、思い出しきていくイッパイアッテナが野良犬とはないでケンカしたことを。そして考えま子供達もきっと生活の中で、自分と他者の違いで葛藤することがあると思います。それぞれ立場、価値観が違う。多様な基準を受け入れる力、他者の立場を想像する力が必要とされています。

この「ルドルフとイッパイアッテナ」は、ルドルフの成長の物語ですが、ルドルフを自分と読み替えて読むことができます。イッパイアッテナはルドルフに対したくさんの名言を示してくれますが、そんな言葉が読み手に響く物語となっています。

置かれた場所で咲きなさい

著者：渡辺 和子
出版社：幻冬舎



中津川市立坂本中学校
ＰＴＡ副会長 兼 母親委員長
熊崎 有美

この本は、２０１６年に89歳でお亡くなりになった渡辺和子先生が書かれた本です。初刊より累計３００万部超えのベストセラーでありロングセラーなので、読まれた方やタイトルを御存じの方も多いのではないでしょうか。

私がこの本に興味を持ったきっかけは、ある番組で著者の渡辺和子先生が出演され、ご自身の人生についてお話されているのを見たことです。渡辺先生はノートルダム清心学園理事長（発行当時）。29歳で修道女（シスター）となり、生涯独身を貫いた方で、かのマザーテレサ来日時には通訳として活躍されたそうです。私が見た番組ではとても穏やかな表情と口調が印象的でした。

「置かれた場所で咲く…。」これは、置かれた場所が最悪でも諦め辛くとも我慢してそこで咲いておきなさいということではありません。どんな境遇でも、不平を言う前に自分から動いてみよう、人間は一花も二花も咲かせられる！ということなのだと解釈しています。

私が一番印象に残った部分は「結婚しても、就職しても、子育てをしても、『こんなはずじゃなかった』と思うことが次から次に出てきます。そんな時にもその状況の中で「咲く」努力をしてほしいのです。

どうしても咲けない時もあります。雨風が強い時、日照り続きで咲けない日、そんなときには無理に咲かなくてもいい。その代わり、根を下へ下へと降ろして、根を張るのです。次に咲く花がより大きく、美しいものとなる為に。」

人生は山あり谷ありで、いい時ばかりではありません。著者の渡辺先生も様々なご苦労をされています。災害や病苦、大切な人との別れ、人間関係のいざこざ、不当な扱いを受けたり、就職、結婚、育児も「こんな筈では…」と思うようなことばかりだったり…だったそうです。

同じ事柄でも、モノの見方によって全く違う捉え方となります。視点・視界・視座を変えることで、つらいことも、自分を成長させてくれるチャンスととらえられたらどうでしょう。未来に光が見え、前向きにとらえることができます。

しかし、置かれた場所に居続けることが危険だと判断し、その場所から遠ざかることも大切ですね。置かれた場所を確認すること、気づくこと、そして自分の周りの人に助けてもらう事。感謝することだと思います。

また、本には、「境遇を選ぶことはできないが生き方を選ぶことはできる。」「現在というかけがえのない時間を精一杯生きよう。」「時間の使い方は、そのまま、いのちの使い方」という言葉があり、置かれた場所で諦めず、腐らず、その中での最善を尽くすことで、幸せになりなさい。それがきっとあなたの周りの人をも幸せにすると書かれております。

皆様が今、置かれている環境はどんな環境ですか？心地がよい環境？人間関係のトラブルがありすぐにでもその場を逃げ出したいくらいつらい環境？特に不満もないが満足もしてない環境？そもそも、それを考える時間や心の余裕がない人も多いのではないでしょうか。

社会全体がコロナ禍や戦争など、不安が多く前向きにとらえることが難しい状況だからこそ、この本にあるようにどんな境遇でも心に花を咲かせる心を持ち続けることの大切さを感じております。

子育て中の全ての親さんにこの本をお勧めします。

Illustration&Quiz
イラスト＆クイズ



ＰＮ．木村 ようへい（各務原市）



ＰＮ．プーさん（関市）

question❷

出題・中村 心音（岐阜市）
〈答えは41 ページ〉

運動会に参加していた王様が「えーん」と泣き出しました。何をしていたでしょう？

子の思い

おふろそうじは わたしのしごと

安八町立牧小学校
2年　長谷 優輝

「おふろそうじって、い外と楽しいな。」

おふろそうじは、わたしのしごとです。2年生になってからずっとやっています。夏休みも毎日つづけてがんばりました。

そうじのこつは2つです。よごれがあるところをりょう手でごしごし力を入れてこすること、あわが立つように少し水をたすことです。「きれいになあれ」と思いながらやっています。

お手つだいがおわると、お母さんがおれいを言ってくれます。そして、おふろに入ると

「きゅっ、きゅって言うね。ありがとう。」

と言ってぎゅうをしてくれるから、うれしくて「あしたもみがこう」と思います。おじいちゃんもにこにこしながら、

「ゆうきちゃん、すごいね。」

と、ほめてくれます。

わたしは、お手つだいが大すきです。家ぞくみんながよろこんでくれるから、うれしいな、もっとやるぞという気もちになります。これからも、おふろがぴっかぴかになるようがんばります。

伝統と誇り

関市立武芸小学校
6年　山口 司恩

私たち武芸小学校には、上級生が下級生に十六拍子太鼓を教えるという伝統があります。この太鼓は、16世紀以前からこの地域にあるもので、関市の無形文化財に指定されています。毎年、地域の保存会の方に協力していただき、学校で取り組んでいます。

私は、低学年のころから上級生の演奏を聴いて、その迫力や一体感に感動していたので、早く習いたくてうずうずしていました。4年生になり、ついに太鼓ができるようになった時、本当にうれしくてワクワクしました。太鼓、竹、かねの役がありますが、私はかねをやることになりました。初めての練習でかねを手にした時、ずしりと重たくて、責任の重さが伝わってくるようでした。私は初め軽い気持ちで練習していましたが、上級生の真剣な姿を見て、考え直しました。練習中、何回も何回も「かねによって全体のリズムが変わる」と言われ、その重要性に気づき、どんどん真剣になっていきました。一生懸命に練習を重ね、みんなで完成させ、披露したときの達成感は、今も忘れることができません。

十六拍子太鼓を通じて、みんなで協力して1つのことを頑張るという経験ができました。武芸小学校の十六拍子太鼓は、地域の宝物であり、私たちの誇りです。いつまでも引き継いでいって欲しいです。

自分で決めた一歩

本巣市立糸貫中学校
3年　橋本 莉胡

3年生は最高学年であり、自分の進路を自分で決めていかなくてはなりません。私は、その第一歩として、「何か一つ自分で決めて取り組むこと」を決意しました。そこで、考えたのは、朝の階段掃除のボランティアを毎日行うことです。

そのように決意したのは、同じクラスのMさんの姿があったからです。Mさんは、いつも朝早く学校に来て、掃除をしています。毎日続けていることもすごいですが、何より、友達が来るのを待ってから行うのではなく、かばんを片付けたら、すぐに掃除場所に向かう姿にMさんの意志の強さを感じました。

いざ、やってみると、自分で決めたこととはいえ、「めんどくさいな」と思うことがありました。「1日くらい休んでもいいかな」と思うこともありました。でも、その気持ちに勝つことができたのは、自分の姿を認めてくれる糸中生や先生の言葉と、仲間の存在があったからです。

掃除をしていると、「おはようございます。ありがとう。」と声をかけてくれます。感謝をしてもらえると、「掃除をしてよかったな。」とやりがいにつながりました。そしてもう一つが仲間の存在です。階段掃除のボランティアは、別のクラスのHさんと一緒に行っています。自分の心が後ろ向きになりそうなとき、一緒に頑張る仲間の存在が心の支えになりました。温かい感謝の言葉と仲間の存在があったからこそ、毎日続けることができたのです。

そんな頼れる仲間も、夏休みはそばにはいません。勉強も自分でやることを決めて、実行していかなければいけません。近くにはいないけれど、仲間も頑張っているはずだと心の中で仲間の存在を感じながら、自分で決めたことを頑張りました。そして、夏休みの高校見学では、自分の目で見て、話を聞いて、いろいろなことを体感できました。それぞれの学科に行って質問したり、部活動見学をしたりしました。見学を通して、どの学科も専門的な知識を詳しく学べるし、多くの種類の中から部活動も選ぶことができ、自分に合った選択ができることが魅力だと感じました。これらの魅力を再確認でき、高校選択の参考になりそうです。

後期は、スポフェスや合唱祭など、3年生として最後の行事がたくさんあります。だからこそ、一つ一つの行事をかみしめながら、全力で取り組みます。そして、受験生として歩みを進めていきます。一人一人進む道は違います。しかし、自分の行きたいところを目指しているのは同じです。そんな同じ志をもつ仲間とともに、「受験」という大きな目標に向かって前進します。

親の願い

この地域に暮らす

可児市立東明小学校
PTA書記　水野 美妙

私には小学校4年生の息子がいます。今暮らしている地域は小学生が少なく、校区も端の方で小学校までは歩いて40分ほどかかります。小学生のうちはたくさん歩いて元

県立大垣桜高校
まんが研究部

勉強



逆さ言葉

くすりはりすく
（薬はリスク）

赤堀 晴輝（岐阜市）

気に学校へ通って欲しいと願っています。しかし、実情は通学班の人数は4人で、6年生1人、5年生1人、息子と2年生が1人です。その内2名は姉弟で、世帯としては3世帯となります。息子が1年生の時は8名ほどいた通学班ですが、入学する子より卒業していく児童が多く、あっという間に4人にまで減ってしまいました。昨今のコロナ禍もあり、体調不良の子がいるとお休みになってしまうことも多く、2名だけで登校することも少なくありません。田舎で人目も少ない中、今のところ事故や怪我もなく無事に小学校へ通っています。しかし、来年度には3名、息子が6年生になる頃には2名になってしまうので、早急に通学班の在り方を考えなければいけません。隣の通学班へ合併するのが一番早い策となりますが、全員の保護者の方から了承を得なければいけませんし、その場合、子供会などはどうするべきかも一緒に考えなければいけません。少子高齢化社会の今ではこのような問題が山積していると思われます。実際今通っている小学校も全校生徒数は減少する一方です。通学班の問題は私の地域だけではないと思われます。

そのような地域に暮らしていると、小学生をたくさん見ることも稀です。今年度PTA本部役員をやらせていただくことになり「あいさつ運動」に参加することになりました。保護者が何名か集まり児童玄関で朝、挨拶をする活動です。朝30分だけの活動ですが、仕事前の30分は貴重な時間です。私は正直少し面倒くさいと思いましたが参加しました。でも参加してみてその思いは吹き飛びました。子供たちが顔を真っ赤にして一生懸命に歩いてくる姿を見て、甚く感動したのです。高学年が低学年の子の面倒を見たり、お友達同士で楽しく話したりしながら歩いてくる姿。そこには純粋な小学生の姿がありました。なかなか普段の生活で見られることのない光景です。私が杞憂しているだけで、子供たちは一生懸命小学生生活を楽しんでいることに感動を覚えました。そして、息子も私を見つけて挨拶をしてくれました。子供たちの純粋な姿に触れることができ、この活動に参加してよかったと思いました。子供たちに向けた活動であっても、親たちにも成長や気付きがある素晴らしい活動だと思いました。日々の忙しさで忘れがちな大切なことを思い出させてくれました。

経験は一生の宝物

多治見市立陶都中学校
PTA副会長　中村 素子

「轍」これは「わだち」と読みます。地面に残っている車輪の跡のことで、30数年前、私が中学3年生だった時の学級目標です。誰の提案だったのか、詳細は全く覚えていませんが、その言葉に初めて出会った瞬間を不思議と鮮明に覚えています。クラスのざわめきや制服の湿ったような匂いまで一緒に蘇ってくるのです。当時、学級目標は英語表記が主流でしたが、漢字一文字で表す格好良さと、様々な事に葛藤し、迷走していた私たちを照らす言葉としてはピッタリで、歓声とともに決まったと記憶しています。それは今でも私にとって大切な言葉で、不安になる度に「大丈夫、轍はちゃんと残っているよ」と当時の先生や仲間が背中を押してくれているように思うのです。

言葉や経験は何年経っても自分を支えてくれることがあります。だからこそ、私は子どもたちにたくさん経験してほしいと思います。コロナ禍と言われるようになって以降、マスクをつけ、人とは距離を取り、消毒や黙食することが当たり前の日常となりました。タブレットがあれば世界中リアルタイムで覗ける時代になりましたが、喧騒や匂いまで記憶できる経験にはきっと敵わないと思うのです。

まだまだ規制がある中での経験ですが、嬉しいことに徐々に学校での行事が戻ってきました。いろんな意見があると思いますが、私は今できる最大の環境の中で、子どもたちが一生懸命考え、時にはぶつかりながら経験が積めるようになったことを嬉しく思います。

この夏、高校野球で東北勢初の優勝を果たした仙台育英高校の須江監督がインタビューで「青春は密だ」と発言されましたが、そのフレーズがとても心に響き胸を打たれました。できないことも多く、心が折れてしまうこともきっとあったと思います。それでも歩みを止めなかったのは、仲間や支えてくれる家族、コーチの存在があったからでしょう。そんな情景を想像させるような言葉でした。今は「密」が怖いし、長引くマスク生活で外すことが恥ずかしい子もいるといいます。確かに納得です。ただ、仲間と手を取り合って創り上げたり、一緒に悩んだりする時間を怖がらないでほしい。それを大人が「密」と呼ばなくていい時代になってほしいと切に願います。

教育の窓

自分で考え判断できるたくましさ

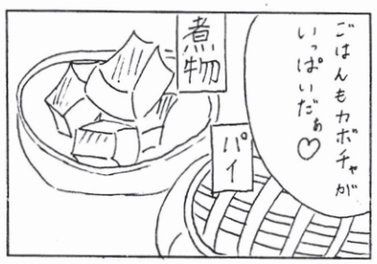
下呂市立上原小学校
教頭　遠山 京子

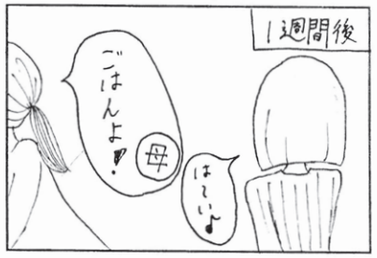
戦国時代の「むごい教育」の逸話。徳川家康がまだ「竹千代」と呼ばれていた頃、隣国の今川義元の元へ「人質」として出された時のこと。後々自分を脅かす存在になりかねないと「竹千代」の才覚を見抜いた義元は、世話役の家来にこう命令します。『「むごい教育」で育てよ。』と。家来は、「厳しく鍛え上げる教育」だと考え、早朝から晩まで勉強や稽古で厳しく鍛え、ご飯も粗食、寝床もせんべい布団1枚など「むごい教育」に徹します。そんなある日、義元に「むごい教育」の進捗状況を聞かれた家来が、誇らしげに答えると、逆に叱責を受けます。「朝は寝たいだけ寝かしてやれ、ご飯も豪華な食事を好きなだけ与えろ、稽古や勉強も無理強いはするな、本人が欲しいというものは何でも与えてやれ。そうやって育てれば、たいていの人間はだめになるから。」義元の言う「むごい教育」とは、自分で考えたり判断したりする力をもたせないための

県立大垣桜高校
まんが研究部

カボチャ









逆さ言葉

ことしくらいらくしとこ
（今年くらい楽しとこ）

林 優菜（各務原市）

「腑抜けの教育」だったようです。

私自身、わが子に「むごい教育」をしてはいなかっただろうかと、時々振り返ることがあります。困ったり失敗したりする前に先手を打っていなかっただろうか。思いを受け止めることなく、頭ごなしに否定したり叱ったりしてはいなかっただろうか。考える力を奪う子育てに、思い当たる節が多々あります。

子育ての出口の姿を「自分の力で幸せを見つけて生き抜く力を付けること」と考えた時、この逸話から、私たち大人に求められていることが、みえてくるように思います。

失敗した、つまずいた、迷った、諦めたなどなど、生活の中で起きる様々なネガティブな出来事。子どもの思いに耳を傾けながら、時には厳しく、時には丁寧に導いていくこと。具体的には失敗もつまずきも、生きる上で大事な経験と前向きに捉えさせ、自分の力で前に進む知恵をもたせること。周りと協調し感謝する心や我慢する心を養うこと。そして「自分で考えて判断できるたくましさ」をもった子どもに育て上げていくことが大事なのではないでしょうか。

子どもたちが生きる未来は、予測困難な社会が待っていると言われています。それをネガティブに捉えるのではなく、どんなに社会が変わっていこうと、自分の居場所を見つけ、仲間と協働しながら自分らしく活躍できる「たくましさ」を育んでいきたいと思います。

言葉の贈り物

瑞穂市立巣南中学校
教頭　松原 輝雄

私は今まで、保護者の方、教え子、先生方、地域の方等々、様々な方からお手紙をいただいてきました。特に、私がまだ若かったころ（今でも気持ちだけは、若いつもりですが?）多くの保護者の方から、心温まるお手紙をよくいただきました。今も、失敗したときや悩んだとき、なかなか指導がうまくいかなかったときなど、よくその手紙を読み返しています。

ある時、相手に嫌な思いをさせてしまった子どもを指導し、保護者へも連絡をしたところ、翌日、とても丁寧なお手紙をいただいたことがありました。子どもの話をしっかりと聞いて、何がいけなかったのか、今の気持ちを相手にどのように伝えたらよいのか、今後どのようにしていけばよいのかなど、保護者が普段からどのように子どもと向きあっているのかがよくわかるお手紙でした。若い頃だったので、私も至らないことがたくさんあったと思うのですが、私の至らない指導に対しても、感謝とお礼の言葉をいただき、とても恐縮しました。保護者の方は、自分より年下の私に対しても、とても丁寧に話を聞いてくださり、指導の意図を理解してくださいました。そういう保護者の方が何人もいらっしゃったように思います。私は、保護者や地域の皆様によって支えられ、育てていただいたことに感謝するとともに、有難く感じています。

このことを通して、自分の気持ちをしっかりと伝えたいときは、紙に文字を書いて伝えることがとてもよい方法であることを実感しました。いつも会っている人ほど、手紙を使って気持ちを伝えることで、より深く伝わるのではないかと思います。保護者の皆様はわが子に、子どもは自分の親に、よさや感謝の気持ちを書いた手紙を送ってみてはどうでしょうか。面と向かってはとても恥ずかしくて言えないことも、文字にすると、上手に伝えることができるかもしれません。

スマホを使ってのラインやメールは確かに便利かもしれません。しかし、手紙を出す人にどんな気持ちを伝えたいのかを考えながら、時には、筆記用具や便箋と、にらめっこしてはどうでしょうか。その手紙は短い文章でも構わないと思います。あなたが贈った言葉のギフトが、相手にとって何よりの宝物になるかもしれません。

我が家のルール

各務原市立鵜沼第三小学校PTA会長　小瀬 尚輝

小瀬家の巻

120

我が家には、小学生3人と幼稚園児を含めた4人の子供がいます。それぞれがサッカーやダンスに取り組み、自分の目標に向かって頑張っています。毎日が本当に慌ただしく賑やかですが、日々子供の成長を感じつつ毎日を過ごしています。

我が家のルールということで、僭越ではございますがいくつかご紹介したいと思います。

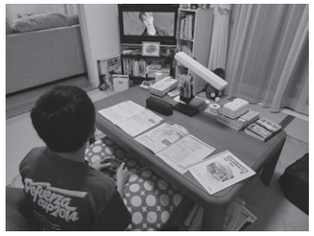
①自分で食べた食器、次の日の給食の準備と帰ってからの片づけはすべて自分で行う。
②学校から帰ってきたらすぐリビングに集まり、みんなで宿題をする。
③平日は20時～20時半には就寝。
④誕生日やイベントの日はみんなでお祝いし、全力でとことん楽しむ！

①～③は一番上の子が幼稚園の頃から行っており、自然に下の子へ伝わっていきました。出来ない時もありますが、習慣として身についています。

今後も子供たちと寄り添いながらともに泣いたり笑ったり、小瀬家らしく毎日を過ごしていきたいと思っています。



話そう！語ろう！わが家の約束



中学2年生の息子と2つの約束を決めています。

①自分の意思で行動すること
②学校生活を楽しむこと

何かを始める時や、勉強する時間と遊ぶ時間の切り替えなど、全て子どもの意思で決めています。しっかり自分で考えて行動できる大人になって欲しいという思いから、いつの間にかできた約束です。家では、ゲームをやっていたかと思うと、いつの間にか勉強や読書をしていたり、マイペースな息子。「そろそろ塾に通った方が良いのでは?」と思っても、本人は「まだ大丈夫。」と…親としては心配もありますが、子どもの意思を尊重し、「塾に入りたい。」と口にする日まで、そっと見守っています。

また、毎朝、学校へ行くときに「楽しんでおいで。」と声を掛けています。小学校に入学する際、新生活での不安を取り除くため「学校は頑張るところじゃないよ。勉強も運動も遊びも、全部楽しむところだよ。」と話したのがきっかけです。何事も楽しんで取り組むことで、〝無意識に〟頑張ることができ、結果は良い方向へと向かっています。残りの学校生活も最後まで思いっきり楽しんで欲しいと願い、今日も「楽しんでおいで。」と見送りました。

子どもの成長を願って

岐阜市立岐阜清流中学校PTA会長　水口 俊介

水口家の巻

121

お試しクッキング

にんじん蒸しパン

岐阜県学校栄養士会・(公財)岐阜県学校給食会

学校給食で、使用回数が多いにんじんを使ったおやつです。にんじんをすりおろして混ぜることで、野菜が苦手なお子さんでも食べやすくなっています。

柔らかい紙カップで作る時は、ココットなどに入れると生地が流れず、きれいな形になります。表面がパカっと割れたおいしそうな蒸しパンを作るコツは、ホットケーキミックスを入れてから混ぜすぎないこと、蒸気の上がった蒸し器に入れ、強火で一気に蒸すことです。

冷凍しておくことができるので、電子レンジで解凍し、おやつや朝ごはんにもおすすめです。ぜひ作ってみてください。



作り方

❶ にんじんはすりおろす。チーズは小さくちぎる。
❷ 蒸し器に水を入れ、沸騰させ、準備しておく。
❸ ボウルににんじん、卵、砂糖、牛乳、サラダ油を入れてよく混ぜる。
❹ ❸にホットケーキミックス、チーズを入れてさっくり混ぜる。
❺ ❹を紙カップの8分目ぐらいまで流し入れる。
❻ ❺を蒸し器に並べる。水滴が落ちないように、蓋との間に布巾をはさみ、強火で10分蒸す。



材料

【材料】(9号カップ6個分)

ホットケーキミックス……150g
にんじん……50g
プロセスチーズ…… 2個 (20g程度)
卵……1個
砂糖…… 大さじ2
牛乳…… 大さじ2
サラダ油……大さじ1



●栄養価(1個あたり)

エネルギー	112kcal
たんぱく質	3.1g
脂質	3.8g
カルシウム	47mg
鉄	0.2mg
亜鉛	0.3mg
ビタミンA	69μgRE
ビタミンB_1	0.03mg
ビタミンB_2	0.06mg
ビタミンC	0.4mg
食物繊維	0.5g
食塩相当量	0.3g

11月号の

親子ではてな



Q1 11月の旧暦は次のうちどれでしょうか?

ア　師走
イ　霜月
ウ　如月





Q2 七五三で男の子、女の子ともにお祝いするのはいつでしょうか?

ア　3歳
イ　5歳
ウ　7歳



応募方法

応募者は、はがきで、11月末までに下記の宛先へお送りください。
(1人1枚・当日消印有効)
※クイズの答えは1問だけでもOKです。

宛先　〒500−8816
岐阜市菅原町3-3
岐阜県校長会館内
岐阜県PTA事務局
「わが子のあゆみ編集部」

なお、応募はがきには『わが子のあゆみ』への感想・意見やなぞなぞの問題と答え、逆さ言葉などを記入してください。

- ●11月号クイズの答え
- ●郵便番号・住所
  学校・学年・氏名
  保護者名
- ●『わが子のあゆみ』への感想・意見
- ●「なぞなぞ」の問題と答え
- ●逆さ言葉

9月号クイズ答え

Q1 (ア)　Q2 (ウ)

9月号のクイズ当選者

川出　ゆま (岐阜市)　山川　大地 (安八郡)
伊藤　涼華 (岐阜市)　市村　優成 (関市)
木村　恵美 (各務原市)　山岡あゆり (関市)
堀　希実 (羽島郡)　鈴木　伶実 (郡上市)
勝　有萌果 (不破郡)

なぞなぞの答え

①ちず (地図)
②おうえん (応援)

作陶を通して　ふるさとを学ぶ

下石小学校の「ふるさと学習」

下石小学校のある土岐市下石（おろし）町は、鎌倉時代から始まったとされる美濃焼の産地です。児童は、ふるさとの歴史・産業を学ぶ学習として、『作陶』を行っています。

1年生は動物、2年生は平面の魚、3年生は立体の魚、4年生はシーサー、5年生は不思議な塔、6年生は陶器とガラスを組み合わせた器を作ります。毎年、作品作りを重ねていくことで、ねじり出して魚の鱗を表現したり、板状の粘土から立体作品にしたりと、粘土の扱いに慣れるとともに、陶器づくりの基本を学んでいます。

素焼きをした作品には、「施釉」といって、釉薬を塗ります。下石工業組合の方やPTAの役員の方を講師にお招きして施釉の方法を学んでいます。児童は、緑・青・茶・ピンク色になる釉薬の中から自分の作品に合う色を決めて仕上げていきます。焼き上がった作品を手に取った児童は、「わあ、こんな風になった。」「想像通りだ。」と完成した喜びを味わっています。

出来上がった作品は、校内「下石っ子作陶展」で保護者の方に見ていただきます。

3年生の総合学習「下石の産業」

3年生になると、地域の地場産業を学ぶために、製陶工場の見学や窯元めぐりを行います。製陶工場では、短時間にたくさんの製品を作る工夫や努力を学びます。窯元めぐりでは、下石町にはたくさんの窯元があることや、一軒一軒が工夫を凝らし、消費者のニーズにあった多種多様な製品づくりをしていることを学びます。

さらに、地元の製陶所の方に来ていただき、地域の産業を盛り上げようと努力していることや海外に日本の陶器のよさを伝えようと活動している姿に触れる学習を行っています。製品の開発までの努力や苦労を伺う中で、児童はあこがれの気持ちをもちます。いただいた陶器に和菓子をのせて試食してみることで、器によって食べ物が「さらにおいしく感じる」ことも経験を通して学んでいます。

6年生の総合学習「下石の未来と発展」

6年生では、美濃焼の伝統工芸士をお招きして、「マグカップづくり」を行います。これまでの作陶とは違い、生活の中で使う物を想定し作品を作ります。入れる飲み物に合わせてカップの高さを決めたり、口をつける部分の滑らかさや持ちやすさなど使う人の立場に立って考えたりするなど、工夫して器を作っていきます。

児童は、普段、何気なく使っている陶器の器が、「使いやすさ」を追求して作られていることに気付くとともに、陶器に対する見方や考え方を深めます。

ろくろによる成形の様子も見せていただきます。伝統工芸士の方があっという間に形の整った器をつくる様子を見学し、技のすばらしさに引き込まれます。

今後もふるさと「下石」の産業や働く人々の思いに触れ、ふるさとのよさをたくさん知り、そのよさを大切にする子に育っていってほしいです。



▲3年生　ふるさとを盛り上げようと考えて活動する方からお話を聞く様子



▲3年生　総合学習「製陶工場の見学」



▲6年生　伝統工芸士の技をみる（令和3年度の様子）



◀3年生
窯元めぐりの様子



▲窯詰め　棚板を何段にも組み上げます。
下石工業組合の方が組み上げて作品をのせていきます。



▲作陶の様子　5年生「不思議な塔」



▲焼き上がった作品たち



◀施釉の様子
焼成するとどんな色になるか楽しみです。



岐阜市立長森北小学校は、岐阜市の中央東に位置する、全校児童３０３名の小学校です。１８７３年【明治６年】の創立で、令和５年度に創立１５０周年をむかえます。学校の教育目標は、「長森北っ子は、あかるく　かしこく　たくましく」で、「あいさつ」、「時間を守る」、「掃除」、「声かけ」を４つの宝物としています。

《長森北小学校の４つの活動》

長森北小学校では、①自己や仲間のよさに気づき、認め合える学級づくり、②よりよい生活や人間関係を築くことを目指して、４つの実践的な活動に取り組んでいます。

スマイル・ゴールド宣言

学級ごとに、誰もが安心して過ごせる学級にするために大切にすることを「スマイル・ゴールド宣言」として決め、毎月３日を「スマイル・ゴールドの日」として、継続的に互いのよさやちがいを認め合っています。



全ての学級の
「スマイル・ゴールド宣言」が
掲示されています。

よさ見つけ

学級ごとに、一人一人のよさを見つけるコーナーを設置し掲示したり、帰りの会やお昼の放送で、仲間のよさを紹介したりして価値付けています。また、縦割り活動「スマイル活動」における他学年の仲間のよさを「ハッピーカード」に記し、交流する取組も行っています。また、児童会執行部が定期的に「北っ子放送局」を行い、出席番号のくじを引き、末尾の番号の付く人を「今日のラッキーちゃん」として、その日は、「ラッキーちゃん」のよさをたくさん見つけ、学級や全校で認めていく活動をしています。



放送で「今日のラッキーちゃん」を
発表する児童



各教室に位置付いている
「よさ見つけ」の掲示

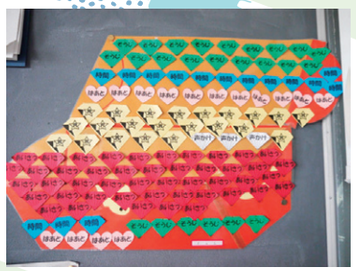
ジュエリー隊

誰もが気持ちよく生活していくために、６年生を中心として、長森北小学校の４つの宝物である「あいさつ、時間を守る、掃除、声かけ」を価値付ける「ジュエリー隊」を結成し、活動を行っています。

それぞれの学級の取組やがんばっている過程を、ジュエリーボックスに宝石を貯めていくという方法で視覚化することにより、意欲付けにもつながっています。前期では、おもに、その素地として、まずジュエリーボックスを開けるためのカギを貯めていきました。前期前半では、特に「あいさつ」に重点を置き、心を通わせる「あいさつ」ということを念頭に、①大きな声、②笑顔で、③相手の目を見て、④自分から進んで、⑤お辞儀をして、の５つをすると心が伝わるのではないかと児童が考え、高学年中心にあいさつ運動を行ってきました。



6年生より結成された「ジュエリー隊」の児童





取組を積み重ね、カギが集まると、
ジュエリーボックスが開き、
さらに宝石が貯まっていきます。

スマイル活動

全校がつながる活動として、６年生を中心とした縦割り活動を行い、一緒に活動することで、関わり合う喜びを感じ、人間関係を深めています。「ハッピーカード」には、６年生には、会を企画してくれた感謝の気持ち、また下学年では、他学年をフォローする姿勢や心から楽しんでいる姿に、一緒に遊べて楽しかった温かい気持ちが素直につづられています。

毎年11月には、「子ども祭り」を計画しています。６年生中心に、コロナ禍でも、無理なく外で楽しく遊べる活動を企画し、発達段階に応じた集団での異年齢の交流をどの子もとても楽しみにしています。



「スマイル活動」とは、
長森北小学校の縦割り活動です。
年5回程度、6年生が計画した
遊びを中心とした活動に取り組みます。



羽島市立中島中学校

夢中！熱中！ 我らが部活

卓球部




私たち卓球部では、フォアやバックなどの基本の練習や回転をかけたサーブの練習など、いろいろな練習を取り入れてがんばっています。大会前には部内リーグを行い、試合形式の練習を行うこともあります。個人戦の多い卓球ですが、教え合ってみんなで一緒に強くなっていきたいです。1つでも多くの試合に勝てるように、日々の練習に一生懸命取り組んでいきます。

文化美術部





文化美術部では、個々の技能の向上を目指して絵画や切り絵などに取り組み、仲間と作品を交流して高め合ったり、一緒に制作をしたりしています。また、自分の作品制作だけでなく、中体連に向けて運動部の皆さんに応援うちわを作ったり、宿泊学習に出発する時に「いってらっしゃい」の横断幕を作ったりして、『心を届ける』活動も行っています。これからも、私たちの制作を通してたくさんの仲間に笑顔を届けていきます。

野球部




中島中野球部は、羽島中央中野球部と合同チームを組み7年目になります。練習や試合、大会と、仲間同士、切磋琢磨しながら取り組んでいます。限られた時間でチーム一丸となって日々練習をしています。意識が変わればプレーが変わることから、野球だけでなく礼儀やマナーを大切にして、一人一人の意識を高めてきました。全員野球をモットーに、最後まであきらめないことを大切にしています。

剣道部




剣道部は例年、部員が少ない部活動ですが、社会人コーチの先生方と和気あいあいと楽しい部活動を続けてきました。他の中学校の剣道部に比べ、厳しさが足りない面はあると思いますが、それでも着実に力もつけていて、実績も残せています。武道の精神を大切にしながらも、一生、剣道を続けてみたいと思えるような楽しさも追及したいと考えています。

女子バスケットボール部




私たちは人数が少なく、出来る練習も限られている中、一人一人が今自分たちに必要なことを考えて、練習を頑張っています。新チームになって間もないですが、互いに必要なことを仲間同士で指摘し合ったり、仲間が苦しい時、不安な時には「頑張れ！」と言うだけではなく、「一緒に頑張ろう！」と声をかけ合ったりできるチームにしていきたいです。

次の大会に向けて、全力で明るく元気に部活を頑張っていきます。

男子バスケットボール部




僕たち男子バスケットボール部は、仲間と共に楽しく日々の練習に励んでいます。僕たちは、岐阜地区大会優勝が目標です。限られた時間の中で最大限内容の濃い練習をすることを意識し、学年関係なくアドバイスをしたり、励まし合ったりしながら練習をしています。目標達成のために、部員全員で一丸となり、声をかけ合って、チームとして強くなれるように頑張っていきます。

バレーボール部




私たちバレーボール部は、学年関係なく楽しく部活動をしています。中体連で結果を残し、地区大会出場を目指して日々頑張っています。そのため私たちはレシーブ、トス、スパイクなどの基礎練習をしてどんなに強い相手でもボールを繋げられるようにしています。また、どんなボールでも最後まで諦めずに追い続けられるようにしています。ですが、まだ課題があります。課題を克服するために、これからはもっと声を出し、チームワークを高めていきたいです。

私たちのPTA

大垣市立東小学校ＰＴＡ

堀島選手来校記念オリジナルうちわを製作、
裏面には大事にしている言葉を書き込む



堀島選手が丁寧に子供たちに
メダルを見せて回ってくれました



室内管弦楽の生演奏に
真剣に聴き入る子供たち



各委員の活動、
メリットを分かりやすく図解



PTAスタッフの募集要項
QRコードで申し込み



資料はスマホやタブレットで！
老眼でも頑張って対応しなくちゃw



行真ウィークと称し来校４日前から
給食時に紹介VTRを流し盛り上げました



鬼滅の刃がかかると楽しさのあまり
踊りだす子供たち　笑顔が溢れました



会員向けピラティス講座は
満員御礼



ＰＴＡ2.0～ＰＴＡをアップデートする～

ＰＴＡ2.0～ＰＴＡをアップデートする～
がテーマの２０２２年度大垣東小ＰＴＡ。コロナの2年間でアップデートへの機運は熟成されていました。活動が制限される中、子供たちにとって大切なことは何か？これからの活動に本当に必要なことは何か？を役員で話し合いました。
２０２２年３月には前会長が
①新年度の役員決めアンケートを廃止
②役員（スタッフに名称変更）立候補制　を導入。
と同時に役員の負担が大きかったベルマーク廃止・回覧図書を廃止し、役員総数を65人から36人に削減（校外委員除く）。立候補制は初めての試みでしたので、スタッフが集まるか不安もあったものの、委員ごとの活動、メリットを紹介しグーグルフォームで回答するなど募集にも工夫しました。その結果、応募は２／３弱、残りは役員で指名させてもらいました。
会員さんには概ね好意的に受け取ってもらってます、多分。

１．得意技で活性化

ベルマーク予算を削減した分、家教への予算配分を増やしピラティスなど会員向けの活動、子供たちに本物を味わってもらう生アンサンブルコンサートを実施しました。
９／２には北京五輪モーグル銅メダリスト堀島行真選手の講演会を開催。大垣東ライオンズクラブ、校友会の協賛を得てコロナ対策に加え、熱中症対策も万全にオリジナル団扇、下敷きを作成しました。堀島選手への質問をグーグルフォームで募集したり、来校数日前から給食時にオリジナル紹介動画を流したり、様々な企画を立て盛り上げました。
図書では学級文庫の充実のために、先生方のリクエストを聞いて子供たちに読んでもらいたい本を購入しました。
役員さんたちの好き、得意技を存分に発揮してもらって、子供たちのため、会員さんのためにやれることを楽しく進めています。

２．ＰＴＡだって働き方改革

ペーパーレス化の準備を進めています。
まずＰＴＡのグーグルサイトを作成。それを活用して2学期中には配布物を会員さんにＤＬしてもらうような仕組みを考えています。これによって役員の手間、費用を大幅削減できる予定です。
役員の会議でも過剰だった計画書、報告書などを削減し、話し合いの時間を増やしました。来年度は会議自体も減らせたらいいなと目論んでいます。
行事ごとのボランティア制の導入も準備していますが、これはもう少し時間と仕組みが必要です。
とにかくだ、仕事そのものを減らす！やらんでええことはやらん。これが一番大事。そこから本当にやりたいこと、やるべきことを充実させられるよう動いています。

がんばる子らの

汗と笑顔と眼差しと

各務原市立那加第三小学校

＼ 那加第三小学校の合い言葉　あ･そ･ぼ･う ／





あいさつ

児童会の計画委員が各教室を巡回して、あいさつを交わします。元気なあいさつが学校中に響き渡ります。地域の方も朝のあいさつ運動に参加してくださいました。



そうじ

音楽が鳴り始めると、遊びをやめて掃除場所に移動します。廊下を磨いたり、ほうきと雑巾で教室をきれいにしたりと、学校中を美しくするために、時間いっぱいがんばります。





ボランティア

みんなのためになることを見つけて進んで取り組んでいます。行ったボランティアは「ボランティア手帳」に記録をし、一冊50回達成を目指しています。夏休みには保護者の方や地域の方も一緒に草取りをしました。



うんどう

隔週木曜日、2時間目が終わった後の「青空タイム」に全校体育があります。全校のみんなで楽しみながら体を動かしています。

機関誌「わが子のあゆみ」
令和4年度　初冬号
第74巻3号　通巻473号

発行／令和4年11月1日　岐阜県PTA連合会
〒500-8816　岐阜市菅原町3-3　岐阜県校長会館内
電話／058(262)3257　FAX／058(262)3259
Eメール／info@gifu-pta.jp　ホームページ／https://gifu-pta.jp
編集／岐阜県PTA連合会広報委員会「わが子のあゆみ」編集部
印刷／サンメッセ株式会社